

平成29年版
森林総合研究所北海道支所
年 報

Annual Report 2017



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所北海道支所
Hokkaido Research Center
Forestry and Forest Products Research Institute

平成 29 年版森林総合研究所北海道支所年報

目 次

はじめに	1
I. 森林総合研究所研究課題一覧	2
II. 鳥類標識調査結果	6
III. 広報活動	18
IV. 研究業績	21
V. 資料	
1. 会議	36
2. 諸行事	37
3. その他の諸会議	37
4. 職員の研修・講習	38
5. 受託出張	39
6. 外国出張	46
7. 研修生の受入	47
8. 来訪者	48
9. 広報活動	49
10. 図書の収集・利用	50
11. 固定試験地・収穫試験地	51
12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧	52
13. 羊ヶ丘の気象	53
VI. 総務	
1. 沿革	56
2. 土地・施設	57
3. 組織	58
4. 職員の異動	59
5. 職員名簿	60
6. 事業予算額	61

はじめに

平成 29 年 4 月から森林総合研究所は森林研究・整備機構となり、従来の研究・育種に加え、森林整備事業、森林保険事業が本則に記載されました。この結果、森林・林業・林産業の試験研究開発を行う森林総合研究所、林木の優良な種苗の育種及び配布を行う森林総合研究所育種センター、バイオ技術を活用した育種を進める森林バイオ研究センター、水源林の造成などを行う森林整備センター、森林災害への保険を担う森林保険センターの組織体制で機構が運営されています。北海道でも地域の内部機関（北海道支所・北海道育種場・北海道水源林整備事務所）がさらに連携を深め、研究・育種・森林整備にあたっていきます。

北海道の森林面積 550 万 ha、森林蓄積 7 億 8500 万 m³は全国でも抜きんてた資源量を誇っています（平成 27 年度）。森林蓄積は平成 26 年度に比べて 1 千万 m³の増加があり、林業の発展に向けてこの豊富な資源をどのように活用するのがカギとなっています。主要造林樹種のトドマツ・カラマツの齢級構成のピークが 50 年生を超えるようになりました。トドマツは加齢とともに幹内に腐朽が入る確率が高まるため、適切な時期に伐倒を行っていかないと、せっかく育て上げた材の価値が著しく下がってしまいます。かつては拡大再造林の中で適当でない立地にも植栽され、そのような林分ではさらに腐朽の心配が高まります。また、間伐に伴う傷跡も腐朽を誘導します。適切な時期に主伐を行うことが重要です。また、伐倒後は確実な再造林が必要です。北海道支所では、交付金プロジェクト「トドマツ人工林主伐に対応した低コスト天然更新施業・管理システムの開発」により、北海道森林管理局のご協力を得ながら、トドマツ造林適地の解明や前生稚樹を活かした再造林や地剥ぎ等によるカンバ林への誘導に関する技術の開発を行っています。

また、森林は多面的機能の発揮を重視する施業を確立していくために、北海道立総合研究機構検林業試験場や北海道大学との共同研究の元、樹木の一部を残しながら施業を行う保残伐の方法を検討も前年に引き続き実施しています。

この年報には、北海道支所で 29 年度に行ってきた活動の概要が記されています。

各研究についてはタイトルしか掲載しておりませんが、支所の広報誌「北の森だより」、森林総合研究所年報、研究成果選集のほか、森林総合研究所ホームページ上で研究成果として紹介しています。ご興味のある方は支所及び森林総合研究所のホームページをご覧ください。

毎年羊ヶ丘の気象及び鳥類標識調査の結果を資料として掲載しております。長期にわたる変動を把握するための貴重なデータとなっております。併せて、ご参照ください。

また、研究成果の最大化に向けて、国や道、市町村の行政機関や道総研・大学・森林組合・企業・NPO 法人・市民の方と連携を進めています。今後ともよろしく願いいたします。

北海道支所長 河原孝行

I. 森林総合研究所北海道支所課題一覧

新課題番号	旧課題番号	課題名	研究期間	責任者(主査) 北海道支所以 外の者は所属 を括弧書き	支所担当者	予算区分	代表/分担	受託相手方	事業・プロジェクト名
ア		重点課題 森林の多面的機能の高度発揮に向けた森林管理技術の開発	28 ～ 32	田中 浩(理事)					
アア		戦略課題 森林生態系を活用した治山技術の高度化と防災・減災技術の開発	28 ～ 32	坪山 良夫(研究ディレクター)					
アAb		基幹課題 森林の水涵(かん)養機能を高度に発揮させる技術の開発	28 ～ 32	大貫 靖浩(土壌特性研究室長)					
アAb1		実施課題 多様な管理手法下にある森林の水保全機能評価技術の開発	28 ～ 32	玉井 幸治(水保全研究室長)	延廣 竜彦	交付金		-	-
アAbPF6	F1P12	外部プロ課題 森林流域からの水資源供給量に関わる気候変動の影響評価	25 ～ 29	玉井 幸治(水保全研究室長)	延廣 竜彦	政府等外受託【公募】	分担	(研)農業・食品産業技術総合研究機構	委託プロジェクト (気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術研究)
アAc		基幹課題 森林気象害リスク評価手法の開発	28 ～ 32	後藤 義明(拠点長)					
アAcPS2	F2P13	交プロ課題 森林気象害のリスク評価手法に関する研究	27 ～ 31	後藤 義明(拠点長)	山野井 克己	所内委託(森林保険勘定)	代表	森林総合研究所 森林保険センター	所内委託プロジェクト
アAd		基幹課題 森林における放射性物質の動態把握と予測モデルの開発	28 ～ 32	金子 真司(拠点長)					
アAdPF2	F11S22	外部プロ課題 森林生態系の土壌に沈着したセシウム137の分布の長期変動予測	25 ～ 27 →	三浦 寛(領域長)	伊藤 江利子	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究B(基金・補助金)
アイ		戦略課題 気候変動の影響評価技術の高度化と適応・緩和技術の開発	28 ～ 32	平田 泰雅(研究ディレクター)					
アイa		基幹課題 長期観測による森林・林業への気候変動影響評価技術の高度化	28 ～ 32	三浦 寛(領域長)					
アイa1		実施課題 森林における物質・エネルギーの蓄積・輸送パラメタリゼーションの高度化と精緻化	28 ～ 32	石塚 成宏(土壌資源研究室長)	山野井 克己 溝口 康子	交付金		-	-
アイa2		実施課題 様々な気候帯に成立する森林生態系研究情報の統合	28 ～ 32	松浦 陽次郎(チーム長)	相澤 州平	交付金		-	-
アイaPF2	E1P08	外部プロ課題 センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究	24 ～ 28	山野井 克己	山野井 克己 溝口 康子	政府等受託【公募】	代表	林野庁	地球環境保全試験研究費 (地球一括計上)
アイaPF3	E1P02	外部プロ課題 森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備	15 ～ 32	三浦 寛(領域長)	相澤 州平 橋本 徹	政府等受託【公募】	代表	林野庁	森林吸収源インベントリ情報整備事業
アイaPF19		外部プロ課題 自然攪乱後の下層植生が森林のCO2収支に与える影響の解明	28 ～ 30	溝口 康子	溝口 康子	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
アイb		基幹課題 生態系機能を活用した気候変動適応及び緩和技術の開発	28 ～ 32	野田 巖(拠点長)					
アイb1		実施課題 熱帯林の生態系機能を活用した気候変動適応および緩和技術の開発	28 ～ 32	藤間 剛(チーム長)	伊藤 江利子	交付金		-	-
アイbPF3	E1P11	外部プロ課題 緩和策と適応策に資する森林生態系機能とサービスの評価	27 ～ 31	松井 哲哉(機構変動研究室長)	津山 幾太郎	政府等外受託【競】	分担	横浜国立大学	環境研究総合推進費 (委託費)【戦略的研究】
アイbPF10	E1P14	外部プロ課題 適応策評価のための森林生態系適域推計モデル開発	27 ～ 31	松井 哲哉(機構変動研究室長)	津山 幾太郎	政府等外受託【公募】	分担	(研)国立環境研究所	気候変動適応技術社会実装プログラム(SI-CAT) (気候変動の影響評価等技術の開発に関する研究)
アイbPF11		外部プロ課題 森林と農地間の土地利用変化に伴う土壌炭素変動量評価とGHGインベントリへの適用研究	28 ～ 30	金子 真司(拠点長)	相澤 州平	政府等外受託【競】	分担	早稲田大学	環境研究総合推進費 (委託費)【問題対応型】
アイbTF1	E1P13	事業・助成課題 森林吸収源インベントリ情報整備事業(審査対応等)	28 ～	平田 泰雅(研究ディレクター)	古家 直行	政府等外受託【公募】	分担	(一般)日本森林技術協会	森林吸収源インベントリ情報整備事業(審査対応等 (次期枠組みにおける森林吸収量の算定・計上方法に係る調査・分析))

アウ		戦略課題	生物多様性の保全等に配慮した森林管理技術の開発	28 ～ 32	小泉 透(研究 ディレクター)						
アウa		基幹課題	生物多様性保全等の森林の多面的機能の評価および管理技術の開発	28 ～ 32	尾崎 研一(領 域長)						
アウaPF2	G2P13	外部プロ課題	森林の生物多様性に寄与する大型哺乳類による樹木種子の長距離散布の解明	25 ～ 28	正木 隆(領域 長)	永光 輝義	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究A(補助金)	
アウaPF12	G21S47	外部プロ課題	遺伝情報に基づいた侵略的外来種ソウシチョウの駆除管理ユニットの策定	26 ～ 28	石橋 靖幸	石橋 靖幸	科研費【競】	分担	滋賀県立琵琶湖博物館	基盤研究C(基金)	
アウaPF18	G2P11	外部プロ課題	人工林の保残伐がもたらす生態系サービスを大規模実証実験で明らかにする	25 ～ 29	尾崎 研一(領 域長)	佐藤 重穂	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究A(補助金)	
アウaPF33		外部プロ課題	ニホンライチョウの分布変遷の解明と気候変化への脆弱性評価	28 ～ 31	津山 幾太郎	津山 幾太郎	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)	
アウaPS1		交プロ課題	地域に応じた森林管理に向けた多面的機能の総合評価手法の確立	28 ～ 31	山浦 悠一(群 落動態研究室)	伊藤 江利子 八巻 一成	交付金プロ		-	交付金プロジェクト1	
アウaTF3		事業・助成課題	保残伐による森林景観の持続的管理手法の提案	28 ～ 29	佐山 勝彦	佐山 勝彦 古家 直行	寄付・助成金・共同研究	分担	(地独)北海道立総合研究 機構	三井物産環境基金(研究助 成)	
アウb		基幹課題	環境低負荷型の総合防除技術の高度化	28 ～ 32	堀野 真一(領 域長)						
アウb1		実施課題	環境に配慮した樹木病害制御技術の高度化	28 ～ 32	服部 力(森林 病理研究室長)	山口 岳広 石原 誠	交付金		-	-	
アウb2		実施課題	森林・林業害虫管理技術の高度化	28 ～ 32	北島 博(チー ム長)	佐山 勝彦	交付金		-	-	
アウb3		実施課題	野生動物管理技術の高度化	28 ～ 32	岡 輝樹(鳥獣 生態研究室長)	佐藤 重穂 松浦 友紀子	交付金		-	-	
アウbPF3	G11S48	外部プロ課題	ネオニコチノイド農薬による陸域昆虫類に対する影響評価研究：ニホンミツバチ野生個体群に対する影響評価	26 ～ 28	滝 久智(昆虫 生体研究室)	永光 輝義	政府等外受託【競】	分担	千葉大学	環境研究総合推進費 (委託費)【問題対応型】	
アウbPF5	G11S50	外部プロ課題	ナラ枯れとシカ食害の二重被害後の森林の再生過程の解明	26 ～ 28	伊東 宏樹	伊東 宏樹	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究C(基金)	
アウbPF30		外部プロ課題	IGTを用いた総合的技術による、農と林が連動した持続的獣害対策体系の確立	28 ～ 30	中村 充博 (チーム長)	松浦 友紀子	政府等外受託【公募】	分担	NPO法人東海地域生物系 先端技術研究会 (三重県農業研究所)	革新的技術開発・緊急展開 事業(地域戦略プロジェク ト)	
アウbPF33		外部プロ課題	サクラ類こぶ病に対する抵抗性を光で誘導する条件と生理的メカニズムの解明	28 ～ 30	石原 誠	石原 誠	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究C(基金)	
アウbPS2		交プロ課題	高齢化したサクラの管理指針の策定	28 ～ 30	勝木 俊雄(多 摩森林科学園)	石原 誠	交付金プロ		-	交付金プロジェクト2	
イ		重点課題	国産材の安定供給に向けた持続的林業システムの開発	28 ～ 32	田中 浩(理 事)						
イア		戦略課題	持続的かつ効率的な森林施業及び林業生産技術の開発	28 ～ 32	堀 靖人(研究 ディレクター)						
イアa		基幹課題	地域特性と多様な生産目標に対応した森林施業技術の開発	28 ～ 32	梶本 卓也(部 門長)						
イアa1		実施課題	多様な森林の育成と修復・回復技術の開発	28 ～ 32	齊藤 哲(物質 生産研究室長)	北尾 光俊 関 剛 相澤 州平 橋本 徹	交付金		-	-	
イアa2		実施課題	地域特性に応じた天然林の更新管理技術の開発	28 ～ 32	佐藤 保(群落 動態研究室長)	山口 岳広 石橋 聡 嶋瀬 拓也 石橋 靖幸 伊東 宏樹 永光 輝義 北村 系子 関 剛 津山 幾太郎 中西 敦史 松浦 友紀子 古家 直行	交付金		-	-	
イアaPF7	A21S29	外部プロ課題	北海道太平洋沿岸の海霧を考慮した気候的乾湿度に対する海浜樹木の環境応答	26 ～ 28	伊藤 江利子	伊藤 江利子	科研費【競】	分担	北海道立研究機構	基盤研究C(基金)	
イアaPF10	A11S29	外部プロ課題	渇水による樹木枯死要因の解明:喉の渇きか空腹か?	27 ～ 29	原山 尚徳	原山 尚徳	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究C(基金)	
イアaPF15		外部プロ課題	優良苗の安定供給と下刈り省力化による一貫作業システム体系の開発	28 ～ 30	梶本 卓也(部 門長)	山田 健 北尾 光俊 上村 章 原山 尚徳 佐々木 尚三	政府等外受託【公募】	代表	(研)農業・食品産業技術総 合研究機構 生物系特定産業技術研究 支援センター	革新的技術開発・緊急展開 事業(地域戦略プロジェクト)	

イアPF20		外部プロ課題	林内機械作業による土壌・植生への攪乱とその持続性の解明	28 ～ 31	倉本 恵生(植 生管理研究室 長)	津山 幾太郎	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
イアPS1	A1P08	交プロ課題	トドマツ人工林主伐に対応した低コスト天然更新施業・管理シ ステムの開発	27 ～ 30	松本 光朗	山口 岳広 石橋 聡 嶋瀬 拓也 北尾 光俊 伊東 宏樹 関 剛 津山 幾太郎 中西 敦史 相澤 州平 上村 章 橋本 徹 伊藤 江利子 原山 尚徳 延廣 竜彦 佐藤 重穂 佐山 勝彦 古家 直行 佐々木 尚三	交付金プロ	-	交付金プロジェクト1	
イアPS2		交プロ課題	広葉樹も多い中山間地で未利用資源をむだなく循環利用する方 策の提案	28 ～ 30	吉永 秀一郎 (多摩森林科学 園)	伊東 宏樹	交付金プロ		-	交付金プロジェクト1
イアPS4		交プロ課題	コンテナ苗の乾燥耐性を向上させる育苗技術の開発	28 ～ 29	飛田 博順(樹 木生理研究室 長)	北尾 光俊 上村 章 原山 尚徳	交付金プロ		-	交付金プロジェクト2
イアTF2	A111	事業・助成課題	再造林用の大苗促成栽培技術の開発	27 ～ 28	上村 章	上村 章	政府等外受託	代表	人工腐植(標津モデル)研 究共同企業体 代表企業 (株)龍谷組	
イアTF6		事業・助成課題	苗木需要量の増加に対応したコンテナ苗生産・植栽システムの 開発	28 ～ 30	津山 幾太郎	津山 幾太郎 原山 尚徳	寄付・助成金・共同研究	分担	北海道立総合研究機構 林業試験場	重点研究
イアb		基幹課題	効率的な森林管理技術及び先導的な林業生産システムの開発	28 ～ 32	陣川 雅樹(領 域長)					
イアb2		実施課題	森林情報の計測評価技術と森林空間の持続的利用手法の高度 化	28 ～ 32	細田 和男(資 源解析研究室 長)	石橋 聡 八巻 一成 古家 直行	交付金		-	-
イアbPF2	A2P04	外部プロ課題	低コストな森林情報把握技術の開発	25 ～ 29	佐野 真(領域 長)	古家 直行	政府等受託【公募】	代表	農林水産技術会議	委託プロジェクト (気候変動に対応した循環 型食料生産等の確立のた めの技術研究)
イアbPF10		外部プロ課題	苗木植栽ロボットの開発・実証	28 ～ 30	山田 健	山田 健 佐々木 尚三	政府等受託	分担	福島県林業研究センター	福島イノベーション・コースト 構想に基づく先端農林業ロ ボット研究開発事業
イアbPF18		外部プロ課題	マルチセンサを用いた天然林の持続的管理のためのモニタリン グ手法の開発	28 ～ 30	平田 泰雅(研 究ディレクター)	古家 直行	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
イアbPF19		外部プロ課題	超高齢・都市社会に対応した新たな都市近郊林管理の方法論 (SURF)の開発	28 ～ 30	高山 範理(環 境計画研究室)	八巻 一成	科研費【競】	代表	日本学術振興会	挑戦的萌芽研究(基金)
イアbPF20		外部プロ課題	林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可 能性	28 ～ 30	八巻 一成	八巻 一成	科研費【競】	分担	国立歴史民俗博物館	基盤研究B(補助金)
イアbPS3		交プロ課題	本州以南におけるカラマツの安定供給と持続的利用方策の提案	28 ～ 30	細田 和男(資 源解析研究室 長)	石橋 聡 古家 直行	交付金プロ		-	交付金プロジェクト1
イアbTF3		事業・助成課題	低空撮影画像による花粉症原因樹木の着花評価技術の開発	28 ～ 28	倉本 恵生(植 生管理研究室 長)	古家 直行	寄付・助成金・共同研究	代表	(公財)新技術開発財団	植物研究助成
イイ		戦略課題	多様な森林資源の活用に対応した木材供給システムの開発	28 ～ 32	堀 靖人(研究 ディレクター)					
イイa		基幹課題	持続的林業経営と合理的、効率的流通・加工体制の構築に向 けた社会的・政策的対策の提示	28 ～ 32	山田 茂樹(領 域長)					
イイa1		実施課題	持続可能な林業経営と木材安定供給体制構築のための対策の 提示	28 ～ 32	岡 裕泰(チー ム長)	嶋瀬 拓也	交付金		-	-
イイaPF2	B21S11	外部プロ課題	製紙資本における多角化状況の違いが企業自身及び林業・木材 産業の発展に与えた影響	25 ～ 29	嶋瀬 拓也	嶋瀬 拓也	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究C(基金)

イイaPS1	B2P03	交プロ課題	マテリアル用国内広葉樹資源の需給実態の解明と需要拡大に向けた対応方策の提案	27 ～ 29	青井 秀樹 (チーム長)	嶋瀬 拓也	交付金プロ	-	交付金プロジェクト1
イイaTF1	B21S20	事業・助成課題	道産カンパ類の高付加価値用途への技術開発	27 ～ 29	嶋瀬 拓也	嶋瀬 拓也	寄付・助成金・共同研究	代表	(地独)北海道立総合研究機構
イイb		基幹課題	地域特性に応じた木質エネルギー等の効率的利用システムの提示	28 ～ 32	久保山 裕史 (林業システム研究室長)				
イイb1		実施課題	効率的な木質バイオマスエネルギー利用システムの提示	28 ～ 32	久保山 裕史 (林業システム研究室長)	北尾 光俊 上村 章 伊藤 江利子 原山 尚徳 石原 誠	交付金	-	-
イイbPS1	D1P07	交プロ課題	木質バイオマス発電事業の安定的な拡大手法の開発	27 ～ 29	久保山 裕史 (林業システム研究室長)	嶋瀬 拓也	交付金プロ	-	交付金プロジェクト1
エ		重点課題	森林生物の利用技術の高度化と林木育種による多様な品種開発及び育種基盤技術の強化	28 ～ 32	渡邊 聡(理事)				
エア		戦略課題	生物機能の解明による森林資源の新たな有効活用技術の高度化	28 ～ 32	河原 孝行(研究ディレクター)				
エアa		基幹課題	樹木の生物機能の解明とその機能性の新たな有効活用	28 ～ 32	丸山 毅(領域長)				
エアa1		実施課題	ゲノム情報を利用した適応等に関する遺伝子の特定及びその多様性解明と有効活用	28 ～ 32	松本 麻子(樹木遺伝研究室長)	永光 輝義 北村 系子 中西 敦史	交付金	-	-
エアaPF4	I21S29	外部プロ課題	樹木種の浸透性交雑を通した適応的遺伝子の獲得プロセスの解明	27 ～ 29	内山 憲太郎 (樹木遺伝研究室)	津山 幾太郎	科研費【競】	代表	日本学術振興会 基盤研究C(基金)
エアaPF7	I21S32	外部プロ課題	針葉樹更新初期過程に顕在化する近交弱勢遺伝子のゲノムワイド探索	27 ～ 29	北村 系子	北村 系子	科研費【競】	分担	東京大学 挑戦的萌芽研究(基金)
エアaPF17		外部プロ課題	気候変動の影響緩和を旨とした北方針葉樹の環境適応ゲノミクス	28 ～ 31	北村 系子	北村 系子 津山 幾太郎	科研費【競】	分担	東京大学 基盤研究A(補助金)
エアaPS4		交プロ課題	海岸性ナラ類の適応的な浸透性交雑による耐塩性遺伝子獲得機構の解明	28 ～ 29	中西 敦史	永光 輝義 中西 敦史	交付金プロ	-	交付金プロジェクト2
エアaTF1		事業・助成課題	島嶼性ブナ北限北海道奥尻島における冬季積雪環境が植物の背腹性に与える影響調査	28 ～ 29	北村 系子	北村 系子	寄付・助成金・共同研究	代表	(公財)自然保護助成基金 プロ・ナトゥーラ・ファンド助成
エアb		基幹課題	きのこ及び微生物が有する生物機能の解明と新たな有効活用	28 ～ 32	根田 仁(領域長)				
エアbPF4		外部プロ課題	放射能汚染地域におけるシイタケ原木林の利用再開・再生技術の開発	28 ～ 30	平出 政和 (チーム長)	伊東 宏樹	政府等受託【競】	代表	農林水産技術会議 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
		基盤事業							
キ102		基盤事業課題	森林気象モニタリング	28 ～ 32	大丸 裕武	山野井 克己 溝口 康子	交付金		
キ105		基盤事業課題	森林水文モニタリング	28 ～ 32	大丸 裕武	山野井 克己	交付金		
キ108		基盤事業課題	森林における降雨・渓流水質モニタリング	28 ～ 32	三浦 覚	相澤 州平	交付金		
キ109		基盤事業課題	気候変動下における広葉樹林、温帯性針葉樹林および森林被害跡地の生態情報の収集と公開	28 ～ 32	正木 隆	関 剛	交付金		

平成 28 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果

契約職員 川路則友

[はじめに]

森林における生物多様性の保全を図るためには、基礎資料として同一調査地において長期間のモニタリングを行い、結果を蓄積することが非常に重要となる。北海道支所実験林内では、平成元年から鳥類標識調査（環境省受託事業、以下、バンディング）を継続して行っており、毎年度の調査結果を平成 15 年度から北海道支所年報に掲載している。調査は鳥類標識調査員（バンダー）として登録された職員 2 名（河原孝行および川路則友）により、それぞれが北海道支所に在籍した期間に応じて行ってきた。平成 28 年度については川路のみで調査を継続、結果の集約、解析等を行った。バンディング事業の意義等については、山階鳥類研究所のホームページ

(http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa_index.html#09) に詳しい。また、北海道支所においては、バンディングを単なる受託事業として行うだけでなく、その結果を実験林に生息する森林性鳥類の渡り傾向、繁殖生態の解明等の研究にも積極的に応用し、成果としてこれまで多くの論文等で公表してきた（たとえば、川路・広川 1998、川路・河原 2013、上沖ら 2014 など）。さらに、平成 25 年度から開始した「標準化された標識調査による鳥類繁殖モニタリング調査（以下、繁殖鳥モニタリング調査）」の結果についても報告を行っている（川路・中田 2015）。以下に、平成 28 年度の結果について詳述する。

[材料と方法]

平成 28 年度は 4 月 23 日から 11 月 3 日までの間で合計 54 日間の調査を行った。春秋の渡り期にはおもに実験林内を通過する渡り鳥に、繁殖期には実験林内で営巣するヤブサメ、センダイムシクイ、コルリ、アオジといった森林性鳥類の巣内ヒナに足環を付け放鳥したほか、定期的に繁殖鳥モニタリング調査を行った。

調査には、鳥類標識調査用の鳥獣捕獲許可（学術研究用捕獲許可の一種）を取得し、実験林内 3 林班、5 林班、6 林班、7 林班および 8 林班の適当な場所に捕獲用網（カスミ網）を設置して行った。調査はおもに早朝（日の出時刻前後）から開始し、捕獲効率が低下する（川路 1996）とされる 9:00am ころまでで調査を終えた。網場の見回りはなるべく頻繁に行い、捕獲された鳥類への負担が少なくなるように努めた。また足環の装着後、必要に応じて観察、体部計

測等を行ったのち、すみやかに放鳥した。巣内ヒナへのバンディングは、その種の成鳥に付けるものと同じサイズの足環が付けられるほどにじゅうぶん脚部が成長し、しかも巣から強制巣立ちさせることのないタイミングを選んで、さらに巣に捕食者を誘引することのないように注意しながら慎重に行った。使用したカスミ網のサイズ、調査地環境等については、これまでとほぼ同様である（詳しくは河原・川路 2011 参照）。

繁殖鳥モニタリング調査については、羊ヶ丘実験林の 6 林班と 8 林班内に 1 箇所ずつ設けた固定調査地に、それぞれカスミ網（HTX、30mm メッシュ×12m）を 5 枚ずつ張り、5 月末から 8 月中旬までの期間を 10 日間ずつ 8 つの期に分け、各期で 1 回ずつ合計 8 回の調査を行った。調査は、日の出時刻もしくは午前 4 時のどちらか遅い方の時間に開始して 6 時間の間、網を開き、約 30 分の間隔で見回りを行った。捕獲した鳥類には、標識調査用の金属製番号付き足環を装着したのち、捕獲時間、網番号を記載し、性、齢を判別、自然翼長、最大翼長および体重を測定、記録した。また脂肪量、抱卵斑の有無、総排泄腔突出具合、換羽状況などの観察、記録を行ったのちに、すみやかに放鳥した。これらは、すべて山階鳥類研究所保全研究室作成による繁殖鳥モニタリング調査マニュアル（第 1 版）に従ったものである（千田ら 2016）。

[結果と考察]

平成 28 年度は、合わせて 38 種 1,495 羽（新放鳥 1,356 羽、再捕獲 139 羽）を捕獲、放鳥した（表 1）。1 日あたりの放鳥数は 27.7 羽であり、例年に比べてやや少ないものの、ほとんど差はなかった。

もっとも放鳥数が多かったのは、アオジで 305 羽（全体の 20.4%、新放鳥 280 羽、再放鳥 25 羽、以下そのように表記）であり、ついでヤブサメ 279 羽（18.7%、236 羽、43 羽）、ルリビタキ 224 羽（15.0%、202 羽、22 羽）、メジロ 150 羽（10.0%、147 羽、3 羽）、キビタキ 111 羽（7.4%、98 羽、13 羽）の順であった。もっとも放鳥数の多かったアオジは、2012 年度までは、600 羽以上を記録していたが、過去 3 年間（以下、25 年度、26 年度および 27 年度の数値）の新放鳥数は 276、319、342 であり、28 年度は 300 羽に届かなかった。これは、通常のアオジに見られる秋季渡り最盛期である 10 月初旬から中旬にかけての調査日数が少な

かったこと、100羽以上を放鳥するような大量に通過する日がほとんどなくなってしまい、それほど捕獲数が伸びなかったことによると考えられるが、アオジの通過数が近年減少していることも考えられるので、今後はじゅうぶん注目すべきである。それに対して、ヤブサメは過去3年間の新放鳥数が、237, 144, 166であり、平成25年とほぼ同じ数であった。後述するが、ヤブサメは繁殖鳥モニタリング調査の期間中に捕獲される個体数においても過去3年間と比較してもほとんど変化がない。すなわち実験林内で繁殖に関与する個体数については変動がほとんどないと思われるので、渡りで通過する個体数がやや増えていることが推測される。ルリビタキの新放鳥数は、過去3年間(102, 170, 182)よりも増えている。しかし、本種の春季の渡りは、かなり限られた日に集中的に通過することが経験的に知られており、今回の年変動も調査日の設定による影響の可能性が高い。

メジロについては、過去3年間(90, 351, 69)にかなり変化が激しかった。とくに平成26年度は、調査日数に比して多くのメジロが捕獲された。その翌年度の急激な減少については、原因は不明であるが、28年度は147羽とやや回復していることが特徴である。キビタキは、過去3年間(83, 82, 98)とほぼ同じ数が捕獲されている。

春季の渡りについては、例年通り4月下旬～5月初旬にルリビタキの放鳥数が多くなる傾向が認められたが、それでもとくに大きなピークは見られなかった。

繁殖期における巣内ヒナへのバンディングでは、営巣を確認し、繁殖経過をモニタリングしたヤブサメ4巣(巣内ヒナ24羽)、センダイムシクイ4巣(同23羽)、アオジ2巣(同10羽)、クロツグミ1巣(同5羽)で合計62羽のヒナに標識を付した。これらの巣内ヒナへのバンディングは、確実に羊ヶ丘実験林で生まれた個体に標識付けをすることで、のちに回収された場合、渡り途中の個体を捕獲しバンディングしたものに比べて、寿命、起始点からの移動、帰還率等をより正確に判断できることが期待される。今回リングを装着した巣内ヒナのうち、6月15日に巣立ったヤブサメ幼鳥1個体が、17日後の7月2日に巣から南へ350mの位置にある網で繁殖鳥モニタリングの際に再捕獲され、6月29日に巣立ったヤブサメの幼鳥1個体が、67日後の9月4日に巣から南東へ130mの位置にある網で再捕獲されている。このことから、ヤブサメの幼鳥は巣立ったあと、出生地エリアに約2ヶ月間は留まっていることが推測された。とくに、後者については、巣立ち日にアオダイショウに巣を襲われているところを目撃したが、幸いにも捕食を逃れたヒナの1羽と思われ、約2ヶ月後に巣の近くで再捕獲された個体であった。これまで15年間にわたって足環を

付けて放鳥した夏鳥の巣内ヒナは14種790羽(巣数は159個)に上るが、そのうちヤブサメ11羽、アオジ3羽、センダイムシクイ1羽が当年の秋の渡り期間に実験林内で再捕獲された。それらの再捕獲場所と出生巣との位置関係から、それぞれのヒナが巣立ち後の移動距離、滞留期間が推定された(川路2016, 2017)。

秋季の渡りでは、1日に100羽以上新放鳥した日はなく、わずかに10月15日に97羽を放鳥したのが最高であった。例年、8月中旬～下旬に渡り個体群が多く通過するセンダイムシクイやエゾムシクイについては、今回とくに目立ったピークは認められなかったが、8月下旬～9月中旬にヤブサメ、キビタキが多く、9月下旬以降にメジロ、クロツグミ、アオジのそれぞれピークが続いた。

標識鳥の回収については、リピート(Rp、羊ヶ丘実験林で放鳥されたあと6ヶ月以内に同地で再捕獲された場合)が101羽と最も多く、リターン(Rt、羊ヶ丘実験林で放鳥したあと6ヶ月以上経過して同地で再捕獲された場合)が37羽であった。リカバリー(Rc、羊ヶ丘実験林もしくは5km以上離れた他所で放鳥された個体が5km以上離れた別の場所もしくは羊ヶ丘実験林で再捕獲された場合)が2羽報告された(表2)。Rc個体はメジロとアオジであったが、前者は羊ヶ丘で放鳥後、168日後に8km南方に位置する西岡国有林内で、後者は西方8kmに位置する札幌市南区南の沢で放鳥され、363日後に羊ヶ丘で再捕獲されたもので、いずれも羊ヶ丘実験林から近距離の地域間での放鳥・回収例である。

リターン(Rt)記録は、通常の野外観察では個体識別の困難な野生鳥類の寿命を知るうえで貴重なデータとなる。新放鳥後約2年以上経過して、平成28年度内に再度羊ヶ丘実験林で回収されたものは6種9個体あり、それらを表3に示した。そのうち、クロツグミ(メス)、メジロ(オス)については、今回再捕獲された記録が同種(同性)における羊ヶ丘実験林での最長寿記録となった。

平成25年度から開始した繁殖鳥モニタリング調査では、16種134個体が調査期間中に新放鳥もしくはリターン(Rt)回収された(表4)。また調査期間中にリピート(Rp)回収されたのは、5種30羽であった。これまで実験林内で巣を確認していないクロジ、エゾムシクイおよびオオムシクイは今年度もモニタリング期間中に捕獲された。とくにクロジに関しては、明確な抱卵斑(指標5)を持つメス成鳥2個体、性不明幼鳥2個体が捕獲されたが、メス成鳥のうち1個体は、2014年8月15日に羊ヶ丘実験林で最初に捕獲し、性不明幼鳥として放鳥した個体が2016年6月2日にリターン回収されたものであった。さらにこの個体は再捕獲時にすでに明確な抱卵斑を持ってい

たことから、繁殖鳥モニタリング調査地周辺で出生した個体が戻ってきて新たに繁殖に関与した可能性を示唆するものとして注目される。これまでも明確な抱卵斑をもつメス成鳥、全身に幼羽の残る幼鳥が複数個体捕獲されたことから実験林内での繁殖が強く示唆されていたが（川路・中田 2015）、今年度の結果から、クロジは実験林内で繁殖している可能性がますます高まったと思われ、今後、巣の発見等によるさらなる検証が期待される。

また、7月2日に捕獲されたエゾムシクイは、腹部に明瞭な抱卵斑を有していたことから、成鳥メスと判断された（図1）。これまで7月初旬で抱卵斑のあるエゾムシクイを捕獲した例はなく、注目すべき記録である。羊ヶ丘実験林で、エゾムシクイは繁殖鳥モニタリング中の7月下旬～8月初旬に捕獲されたことがこれまでも数例あるが、それらはほとんどが初列風切羽の一部等をすでに換羽中であったことから、他地域で繁殖を終了し、移動を開始したものの可能性が高い。また羊ヶ丘実験林では、これまでも6月下旬～7月中旬にエゾムシクイのさえずりを聞くことはあったが、いずれもかなり短期間で、一時的であったことから、まだ渡り途中の個体のものと考えられた。今回の抱卵斑保有個体は、鎖骨間にわずかに脂肪の蓄積が認められたことから、定山溪などの近隣高標高地域で繁殖したものが、何らかの原因で繁殖が失敗し、抱卵斑消失前に羊ヶ丘まで移動してきたものとも考えられる。一方で、実験林内においてエゾムシクイが突発的に繁殖している可能性も否定できないことから、今後さらに注目する必要がある。

繁殖鳥モニタリング調査は、28年度で4年目になるが、これまでの種数と捕獲数（新放鳥数＋リターン個体数）の推移を図1に示した。まず総捕獲数をみると、平成26年度でのみやや多かったが、これは、この年に、センダイムシクイ、シジュウカラおよびハシブトガラ の巣立ち幼鳥の群れが数回にわたってまとまって捕獲されたことの影響が大きいと思われる。また種数では平成25年度～27年度は20種前後と安定していたが、今年度は16種と最も少なかった。これは、27年度までは、まだ渡り途中と思われる種（たとえば、アリスイ、ビンズイ、シマセンニュウなど）や繁殖が確実な中大型キツツキ類（アカゲラ、オオアカゲラ）が捕獲されていたが、今年度にはこれらの種が記録されなかったことが影響していると思われる。これまでの4年間における捕獲種の中では、上述した平成26年度のセンダイムシクイを除くと、毎年もっとも多く捕獲されるのはヤブサメである。そこでその特徴を見ると、まずその捕獲数は毎年30羽前後と一定している（図2）。捕獲個体を成鳥オス、メス、幼鳥に分けて傾向を見ると、成鳥メスは平成25年度にはかなり少なかったが、26年度以降は10羽前後と

毎年一定している（図3）。また捕獲個体にはいずれも抱卵斑が明確に出ていたことから、繁殖を行っていることは確実である。このことから、繁殖鳥モニタリング網の設置場所周辺には、毎年10個前後のヤブサメの活動的な巣（同一シーズン2回目の繁殖巣も含む）が存在していることが推定できる。一方、成鳥オスは毎年メスに比べてやや多く捕獲されている（図3）。ヤブサメの婚姻形態は基本的に一夫一妻であるが、特異的につがい外オスが出現するケースが多いこと（Kawaji *et al.* 1996）から、一部つがい外オスと一緒に捕獲されたものと思われる。幼鳥に関しては、毎年8～12羽の捕獲が見られ、順調に繁殖が進行していることがうかがえる（図3）。このように繁殖鳥モニタリング調査を長期間継続することで、特定の鳥類について、個体群動態のみならず、繁殖状況なども明らかにすることができる。

[文献]

- 上沖正欣・川路則友・河原孝行. 2014. ヤブサメ *Urosphena squameiceps* における繁殖地への帰還率. 日本鳥類標識協会誌 26(2): 62-68.
- 河原孝行・川路則友 (2011) III. 平成22年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成23年版森林総合研究所北海道支所年報:24-30
- 川路則友 (1996) 春の渡り期における林床性鳥類捕獲数の日周変化. 日本鳥学会誌 45(3): 175-182
- 川路則友 (2016) ヤブサメ幼鳥は出生地こいつまで留まるか? 日本鳥学会 2016 年度大会講演要旨集: 127
- 川路則友 (2017) 森林性夏鳥の幼鳥における出生地周辺滞留期間. 日本鳥類標識協会誌 29(2) (印刷中)
- 川路則友・広川淳子 (1998) ヤブサメにおける Complete post-juvenile moult について. 日本鳥類標識協会誌 13(1): 1-7
- 川路則友・河原孝行 (2013) 羊ヶ丘の鳥はどこから来て、どこへ行く? 北の森だより 10: 4-8
- 川路則友・中田達哉 (2015) 標準化された標識調査による鳥類繁殖モニタリングの有効活用. 日本鳥類標識協会誌 27: 14-22
- Kawaji, N., Kawaji, K. & Hirokawa, J. (1996) Breeding ecology of the Short-tailed Bush Warbler *Cettia squameiceps* in western Hokkaido. Jap. J. Ornithol. 45: 1-15
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. 三田.
- 千田万里子・仲村昇・尾崎清明 (2016) 2012～2015 年に福島県で行われた繁殖鳥モニタリング調査の結果報告. 山階鳥類学雑誌 47: 140-155.



図1 繁殖鳥モニタリング中（2016年7月2日）に捕獲されたエゾムシクイ（メス成鳥）。
腹部に明瞭な抱卵斑がある（下写真）

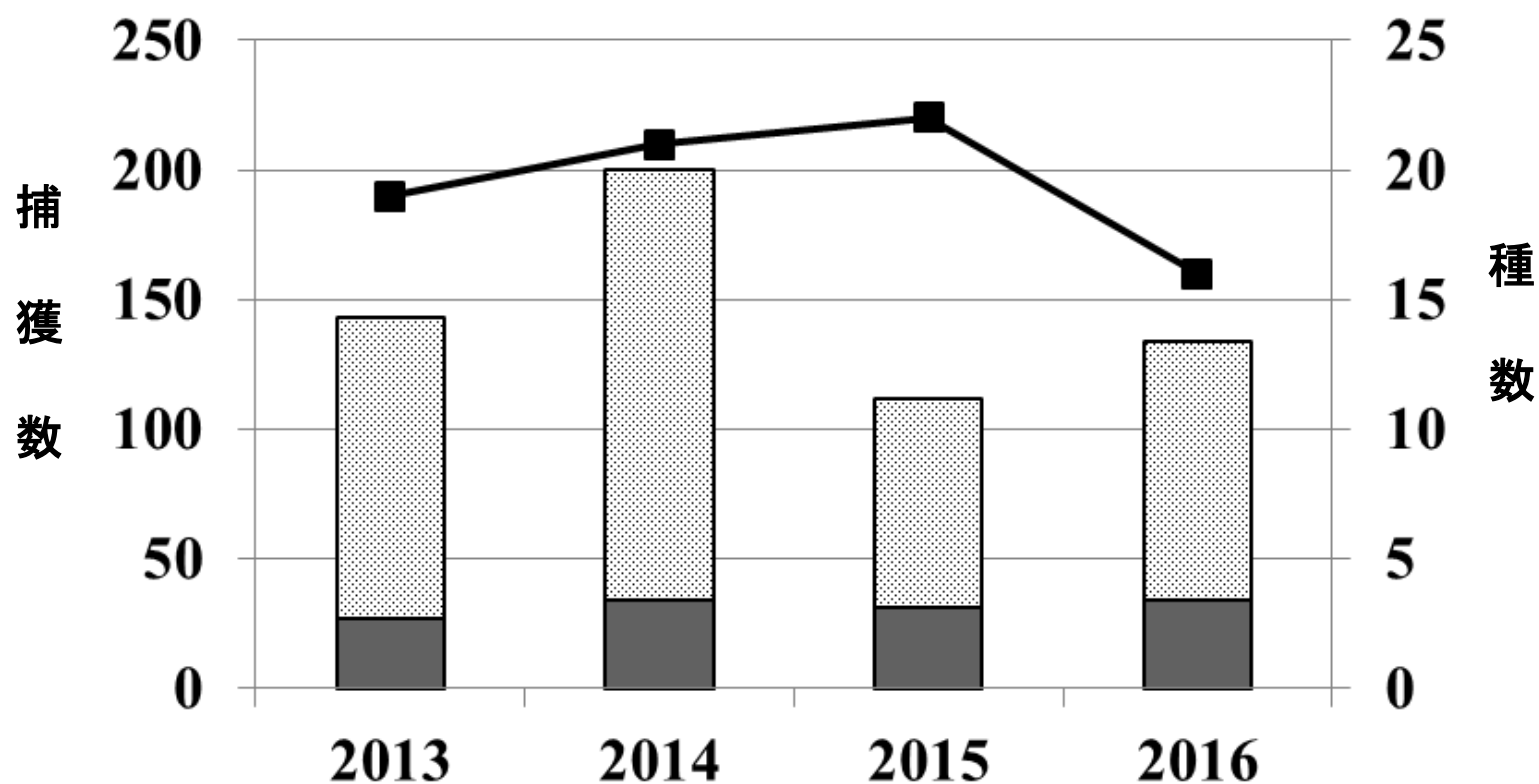


図2 繁殖鳥モニタリング調査期間中の捕獲数と種数(平成25年度～28年度)

総捕獲数 ヤブサメ捕獲数 種数

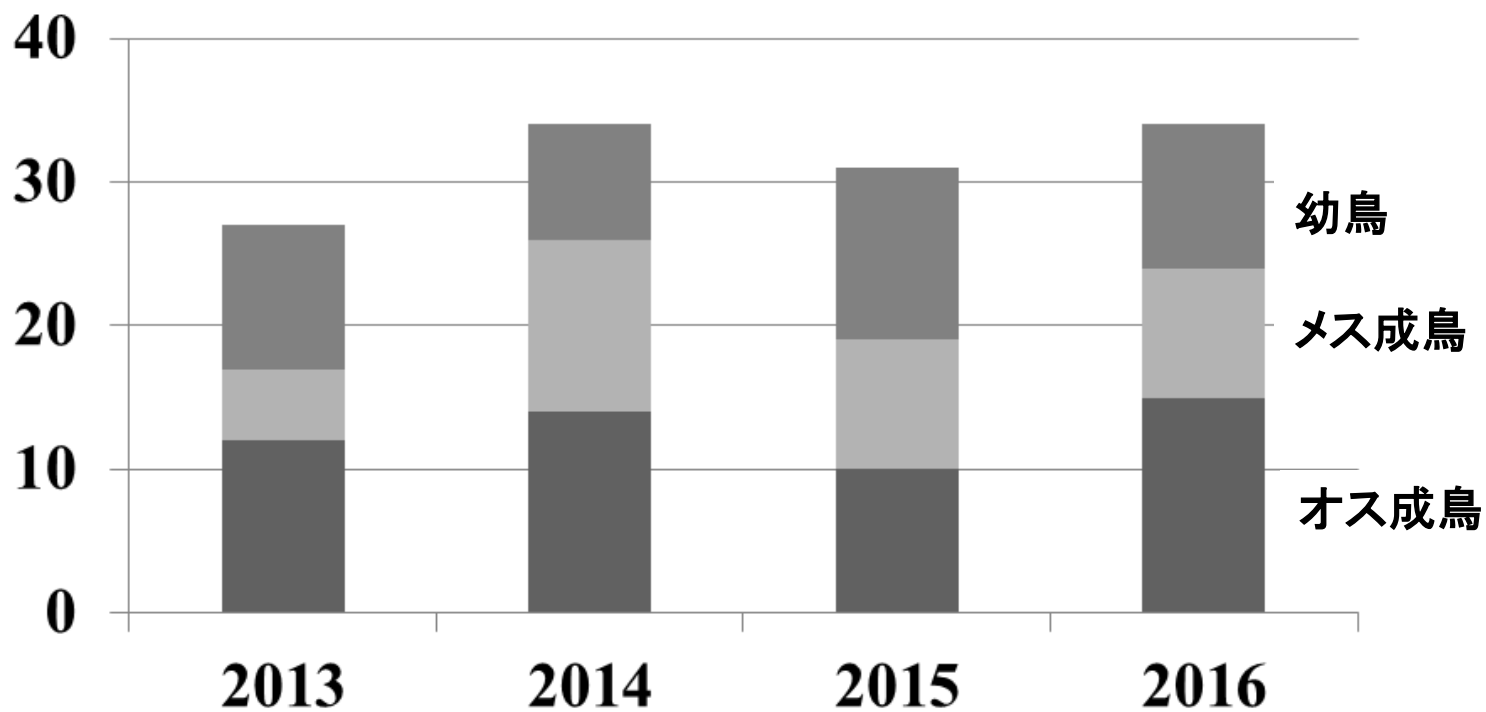


図3 繁殖鳥モニタリング調査期間中におけるヤブサメ捕獲個体の性齢割合

表 1 平成28年度日別放鳥一覧

調査月日	4/23	4/24	4/28	5/1	5/3	5/5	5/6	5/8	6/2	6/3	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/21	6/22	6/26	6/27			
天候	C	F	C	F	C/F	C	C	C	C	C	C	C	F	R	C	F	F	C	C/R	C/F			
新放鳥数	7	47	32	37	98	54	54	33	9	6	7	16	6	7	11	6	3	5	16	5			
再捕獲数(R)	1	1	4	3	11	5	14	11	8	0	0	7	0	0	0	0	0	0	5	6			
種名／種類数／放鳥種別	3	10	8	9	17	12	15	9	9	1	1	5	1	1	2	1	1	1	6	6			
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N			
1 コゲラ		2																					
2 オオアカゲラ																							
3 アカゲラ						1																	
4 モズ																							
5 ハシブトガラ	1	1																					
6 コガラ				1																			
7 ヤマガラ					2																		
8 ヒガラ					1																		
9 シジュウカラ		1	1	1		1	2	2															
10 ウグイス		2	2	1	1	6	7	6															
11 ヤブサメ		2	6	1	1	1	9	1	7	2	2	1	1	3	6	5	4	6		4	10	2	2
12 エナガ																					2		
13 オオムシクイ									1			3											
14 エゾムシクイ					1																		
15 センダイムシクイ					3	2	1	1	5	1	1		7	1		7		6	3			1	
16 メジロ				1	1	2	2	2		1													
17 エゾセンニュウ																							
18 ゴジュウカラ		1																					
19 キバシリ																							
20 ミソサザイ					1																		
21 クロツグミ			1	1		1	1	1	4				7							1	1		
22 マミチャジナイ																							
23 シロハラ																							
24 アカハラ																							
25 コマドリ		1			1	1	2	2	1														
26 ノゴマ							2																
27 コルリ			2	1	1	2	3	1	2	2	1	1											
28 ルリビタキ	6	33	1	14	1	27	5	56	1	15	7	20	6	10									
29 キビタキ						1	1	1	1											1	1	1	
30 オオルリ																							
31 ビンズイ																							
32 カワラヒワ							1	1															
33 ベニマシコ																							
34 シメ					1		3																
35 カシラダカ																							
36 ミヤマホオジロ																							
37 アオジ	1	2	2	4	2	2	4	1	6	1	5	1	1	2	1				5		1	1	1
38 クロジ		2	2	3	7	8	4	12	1							5							

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表 1 平成28年度日別放鳥一覧

調査月日	7/2	7/16	7/24	7/31	8/11	8/14	8/18	8/19	8/24	8/25	8/27	8/28	8/30	9/1	9/3	9/4	9/10	9/11	9/15	9/16
天候	C	C/F	F	C	F	F	F	C	F	F	F	F	C	F	C	C	C	C	F	F
新放鳥数	13	15	13	21	12	12	16	19	22	16	19	24	10	21	29	26	19	17	20	17
再捕獲数(R)	12	5	5	3	4	3	1	0	2	0	1	1	0	0	0	2	3	1	0	2
種名／種類数／放鳥種別	8	6	8	9	6	5	5	7	4	4	5	3	4	7	5	6	3	4	4	5
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N
1 コゲラ	1	1		1																
2 オオアカゲラ						1														
3 アカゲラ																				
4 モズ																				
5 ハシブトガラ	1		1	1																
6 コガラ																				
7 ヤマガラ							2												1	
8 ヒガラ																				
9 シジュウカラ								1						1						
10 ウグイス			1																	
11 ヤブサメ	9	3	5	3	2	1	1	5	1	2	3	7	2	11	4	11	15	4	11	18
12 エナガ																				
13 オオムシクイ																				
14 エゾムシクイ	1		2	1	1	2	1	3	1					1	1	1				
15 センダイムシクイ			1	10				1												
16 メジロ				2				1	5	3	1			1	1	2	2	1	8	7
17 エゾセンニュウ																1				
18 ゴジュウカラ																				
19 キバシリ																				
20 ミソサザイ																				
21 クロツグミ	4	2		1	1															1
22 マミチャジナイ																				
23 シロハラ																				
24 アカハラ																		1		
25 コマドリ																				
26 ノゴマ																				
27 コルリ	1	2		1	1	5	1	9			2	3	2	1	2	1	1			
28 ルリビタキ																				
29 キビタキ	2	4	1	2	1	3	1	1	1		7	4	7	1	3	1	7	4	4	8
30 オオルリ																				
31 ビンズイ																				
32 カウラヒワ		1																		
33 ベニマシコ																				
34 シメ																				
35 カシラダカ																				
36 ミヤマホオジロ																				
37 アオジ	1	1	3	1	2	2	2	2			1			1					3	
38 クロジ				2				1	1	2		1		1	1					

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表 1 平成28年度日別放鳥一覧

調査月日	9/19	9/22	9/24	9/25	10/2	10/8	10/9	10/10	10/15	10/16	10/27	10/28	10/30	11/3	54日間		
天候	C	C	F	C	F	C	C	C	F	F	F	C	C/S	C			
新放鳥数	12	34	18	42	71	58	45	30	97	49	12	29	20	19	1,356羽		
再捕獲数(R)	0	1	1	1	5	1	2	0	0	2	2	0	2	1	139羽		
種名／種類数／放鳥種別	4	10	7	10	11	4	8	7	11	11	8	6	6	7	38種		
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R+N
1 コゲラ															1	4	5
2 オオアカゲラ															0	1	1
3 アカゲラ															0	1	1
4 モズ					1										0	1	1
5 ハシブトガラ											1				1	5	6
6 コガラ							1				1				1	2	3
7 ヤマガラ															1	4	5
8 ヒガラ															0	1	1
9 シジュウカラ	1		1	1	1	5			1	1	3	2		1	7	20	27
10 ウグイス		1			1	2	3	4	2	3	2	2	1	4	2	2	51
11 ヤブサメ	5	4	8	4	2					1					43	236	279
12 エナガ															0	2	2
13 オオムシクイ				1											0	5	5
14 エゾムシクイ															2	14	16
15 センダイムシクイ															3	48	51
16 メジロ	4	11	4	14	1	37		11	3	2	2	3	13		2	3	147
17 エゾセンニュウ															0	1	1
18 ゴジュウカラ				1						1					0	3	3
19 キバシリ					1										0	1	1
20 ミソサザイ									1						0	2	2
21 クロツグミ		1	6	1	7	2	8	8	9	5	1				6	70	76
22 マミチャジナイ		1		1											0	2	2
23 シロハラ									3	1	1	1		1	1	6	7
24 アカハラ															0	1	1
25 コマドリ							1	1	1						0	11	11
26 ノゴマ					4		2					1			0	9	9
27 コルリ															5	45	50
28 ルリビタキ									3	2	3	3	1	6	4	22	202
29 キビタキ	2	7	2	4	1			1							13	98	111
30 オオルリ		1													0	1	1
31 ビンズイ		1													0	1	1
32 カウラヒワ															0	3	3
33 ベニマシコ									3						0	3	3
34 シメ															0	4	4
35 カシラダカ													1	3	0	4	4
36 ミヤマホオジロ										1					0	1	1
37 アオジ		1	1	1	1	8	2	14	1	46	1	18	11	72	1	33	
38 クロジ		1	1	1	1	3	2	1	1	1	4	1	1		1	3	66

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表2 平成28年度中に判明した標識個体の移動回収例

種名	足環番号	性	齢	放鳥年月日 回収年月日	放鳥場所 回収場所	経過日数	距離
アオジ	2AD57189	M? M	J A	2015/10/04 2016/10/02	北海道札幌市南区中ノ沢・南沢 森林総合研究所北海道支所実験林	363日	8km
メジロ	1G74337	U M?	A U	2016/05/01 2016/10/16	森林総合研究所北海道支所実験林 札幌市豊平区西岡 国有林1206林 班	168日	8km

M: オス、U: 性不明、A: 成鳥、J: 幼鳥、U: 齢不明

表3 初放鳥後2年以上経過して28年度中に再捕獲(Rt)された種と経過年月

種名	足環番号	性	初放鳥日	再捕獲日	経過年月	平成27年度までの同種(同性)における最長経過年月(羊ヶ丘)
アオジ	2AE09052	オス	2011/10/12	2016/06/11	4年8月	7年7月
クロツグミ	04B66120	メス	2012/05/06	2016/04/28	3年11月*	3年10月
アオジ	2AF10128	メス	2012/10/02	2016/07/31	3年9月	8年7月
アオジ	2AF10465	メス	2013/06/16	2016/10/16	3年4月	8年7月
クロツグミ	04B66197	メス	2013/06/09	2016/05/03	2年11月	3年10月
メジロ	01G23456	オス	2014/04/28	2016/05/06	2年1月*	-
キビタキ	01G13014	オス	2014/07/20	2016/07/16	2年0月	4年11月
コガラ	2AF10832	不明	2014/05/05	2016/05/01	2年0月	4年3月
ヤブサメ	01G23634	オス	2014/06/15	2016/06/11	2年0月	4年0月

* 28年度のものが最長記録となったもの

表4 平成28年度繁殖鳥モニタリング捕獲結果

種名	オス成鳥			メス成鳥			性不明成鳥			幼鳥		合計	
	New	Rt	Rp	Ne	Rt	Rp	New	Rt	Rp	New	Rp	New+Rt	Rp
ヤブサメ(*)	9	6	12	7	2	6				10	1	34	19
アオジ(*)	2	3	2	4	2	3				8	1	19	6
キビタキ(*)	3	2	1	5	1	2				6		17	3
センダイムシクイ(*)	1	1	1	1			1			10		14	1
クロツグミ(*)	4	2		3						3		12	
コルリ(*)	1	1	1	3						3		8	1
エゾムシクイ	1			1			2	1		2		7	
オオムシクイ	2						2					4	
クロジ				1	1					2		4	
コゲラ(*)	1	1								1		3	
ハシブトガラ(*)				2						1		3	
メジロ(*)				1						2		3	
エナガ(*)										2		2	
シジュウカラ(*)	1			1								2	
ウグイス(*)										1		1	
カワラヒワ(*)	1											1	
合計	26	16	17	29	6	11	5	1	0	51	2	134	30

New: 新放鳥、Rt: リターン回収、Rp: リピート回収

(*) 実験林内で活動中の巣を発見したことのある種

Ⅲ. 広報活動

名称：平成28年度一般公開

日時：平成28年5月14日（土） 9:30～15:30

参加者：219名

主催：森林総合研究所北海道支所・林木育種センター北海道育種場・森林整備センター札幌水源林整備事務所

概要：一般の方が普段は立ち入れない実験林内を案内したエコツアーや、普段利用いただいている樹木園内のガイドでは、参加者から多くの質問を受けました。

北海道育種場は「挿し木体験コーナー」を担当し、多数の参加をいただきました。



森林講座（標本館）



実験林ツアー



樹木園ガイド



挿し木体験コーナー

名称：平成28年度森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

日時：平成29年2月8日（水） 13:30～16:10

参加者：138名

場所：札幌市男女共同参画センター 3階ホール（札幌エルプラザ内）

テーマ：「北の森林を活かす（きたのもりをいかす）」

発表1：「地域森林資源の有効利用に向けて」

発表者：嶋瀬拓也

〔要旨〕 北海道の森林資源の有効活用に向けて、森林・林業・木材産業の現状を整理し、木材生産・流通・加工のあり方を考察しました。

まず、針葉樹については、人工林資源と製材・合板工場の地理的分布のずれ、森林資源の高齢級化・大径化と小径材に偏った需要、道内需要を満たさないまま道外に出荷される製品といった3つのミスマッチがあることを指摘し、原木輸送の効率化や、資源と需要にマッチした工場の建設など、ミスマッチを解消するための提

言を行いました。

また、広葉樹については、天然林資源の劣化や伐採縮小により、かつてのような大径・優良材の供給が困難になるなか、小径材や低利用樹種の利用拡大に向けた需給双方の取り組みが活発化しており、その具体例を紹介しました。ウイスキー樽の需要増など最近の動きも取り上げ、広葉樹需要に対応した取り組みの必要性を示しました。

最後に、これらのことをバランスよく踏まえた「北海道森林・林業・木材産業のグランドデザイン」の必要性を提起しました。

発表2：「森林の間伐と水源涵養機能」

発表者：延廣竜彦

〔要旨〕 森林は間伐を行うことにより、林内は明るくなり、下草が繁茂し、木の生育も良くなることが知られています。また、間伐によって水源涵養機能も高くなると言われています。水源涵養機能とは一時的に降雨を森林土壌中に蓄えることにより洪水・渇水を緩和する機能や水資源を貯留する機能を指しますが、間伐することによってこの水源涵養機能がどれくらい変化するか、これまで具体的な数字と共に語られることは多くありませんでした。

そこで、私たちは実際に茨城県のヒノキ人工林で間伐を行い、流域スケールで間伐前後の水源涵養機能の変化について調べました。その結果、間伐がもたらす樹冠層の葉量の減少が蒸発散量を低下させ、それにより河川への流出量が多くなることを明らかにしました。

発表3：「林業遺産と地域づくり」

発表者：八巻一成

〔要旨〕 近年、世界遺産をはじめとするさまざまな遺産がブームとなっています。日本森林学会では、林業遺産を選定する取り組みを2013年度より始めました。北海道からは「東京大学北海道演習林」が、他に例を見ない長年にわたる大規模な天然林施業の実績が評価され、林業遺産に選ばれています。このように、北海道における林業発展の歴史をとどめる林業遺産を後世に残し、地域づくりや森林教育に利活用していくことは、これからますます重要になるでしょう。

そこで、私たちは北海道の林業遺産の候補地を、北海道文化資源データベースや文献調査、聞き取り調査によってとりまとめました。その中にはパイロットフォレストなどの林業地や各地の森林鉄道の遺構が含まれています。特に森林鉄道は注目度が高く、現在、丸瀬布で観光用に利用されている森林鉄道は、林業遺産を地域おこしに繋げる良い事例と考えられます。一方、林業遺産の多くは森の中に埋もれつつあります。また、当時を知る人も次第に少なくなり、人々の記憶からも消え去ろうとしています。消えかけている林業遺産に改めて注目し、これらを保存するとともに、地域おこしに活用する取り組みが求められます。



開会挨拶（松本支所長）



発表1（嶋瀬）



発表 2 (延廣)



発表 3 (八巻)



閉会挨拶 (今井場長)

V. 平成28年度研究業績

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
松本光朗、岡裕泰、鹿又秀聡、恒次祐子、嶋瀬拓也、外崎真理雄、光田靖(宮崎大)、加用千裕(農工大)	2016.10	将来予測から見た森林分野の地球温暖化緩和策	森林総合研究所第3期中期計画成果集、46-47
MATSUMOTO Mitsuo (松本光朗)、OKA Hiroyasu (岡裕泰)	2016.10	Preface(巻頭言)	Journal of Forest Research、21(5):197-198
MATSUMOTO Mitsuo (松本光朗)、OKA Hiroyasu (岡裕泰)、MITSUDA Yasushi (光田靖・宮崎大学)、HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、KAYO Chihiro (加用千裕・東京農工大学)、TSUNETSUGU Yuko (恒次祐子)、TONOSAKI Mario (外崎真理雄)	2016.10	Potential contributions of forestry and wood use to climate change mitigation in Japan(日本における林業と木材利用による気候変動緩和への貢献の可能性)	Journal of Forest Research、21(5):211-222
NAKAJIMA Tohru (中島徹・東京大学)、SHIRAISHI Norihiko (白石則彦・東京大学)、KANOMATA Hidesato (鹿又秀聡)、MATSUMOTO Mitsuo (松本光朗)	2017.01	A method to maximise forest profitability through optimal rotation period selection under various economic, site and silvicultural conditions(様々な経済、地位、造林条件下での最適輪伐期の選定を通じた森林収益性を最大化する手法)	New Zealand Journal of Forestry Science、47(1)、1-13 DOI 10.1186/s40490-016-0079-6
HIRAKAWA Hirofumi (平川浩文)	2015.07	Wildlife Monitoring Network in Hokkaido (北海道野生生物観測ネットワーク)	Vth International Wildlife Management Congress (第5回国際野生生物管理会議)、Abstracts(7204)
平川浩文	2016.01	雪に眠るコウモリ	東京都公園協会発行「緑と水のひろば」、82:18-19
平川浩文、高畠千尋(信州大学)	2016.09	動物移動軌跡の時間軸分析 - GPS テレメトリデータへの新たなアプローチ	日本哺乳類学会2016年度大会プログラム・講演要旨集、p.172
平川浩文、高畠千尋(信州大学)、瀧井暁子(信州大学)、泉山茂之(信州大学)	2016.11	動物GPSデータの時間軸分析	第32回個体群生態学会大会プログラム・講演要旨集、p.50
HIRAKAWA Hirofumi (平川浩文)	2016.12	Snow and Bats (雪とコウモリ)	Bat Conservation Trust発行「Bat News」、111:10-10
YAMAGUCHI Takehiro (山口岳広)	2016.09	Decaying and development of fruiting body in the stem of Sakhalin fir inoculated with Fomitiporia hartigii (モミサルノコシカケを接種したトドマツ生立木における腐朽の進展と子実体の発生)	Abies 2016: The 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir Program and Abstracts 21-24
山口岳広	2016.10	非破壊的腐朽探査機器を用いて北海道内国有林のトドマツ人工林収獲試験地における腐朽被害実態を探る	北方林業、67(3):105-108
宮本敏澄(北海道大)、升屋勇人、小泉章夫(北海道大)、山口岳広、石原誠、山岡裕一(筑波大)、岡根泉(筑波大)	2016.11	北海道大学構内で発生したハルニレの集団枯損について	平成28年度北方森林学会大会要旨、P-27
山口岳広	2017.02	列状間伐を行なったトドマツ林分における幹損傷被害の実態	北方森林研究、65:55-58
山口岳広	2017.03	北海道におけるニオイヒバ衰退枯死の被害実態	日本森林学会大会学術講演集、128:285
石橋聡(石橋聡)	2016.04	大雪八方台	北方林業、67(1):41
石橋聡(石橋聡)	2016.04	川湯天然林施業実験地	北方林業、67(1):33-34
石橋聡(石橋聡)	2016.07	パイロットフォレスト	北方林業、67(2):41
石橋聡(石橋聡)	2016.07	雌阿寒山麓アカエゾマツ林分試験地	北方林業、67(2):34-35
石橋聡、飯田滋生、尾崎研一、北村系子、佐山勝彦、牧野俊一、河原孝行、倉本恵生、高橋正義、金指あや子(元森林総研)	2016.08	天然更新を促進して北方天然林を再生する新たな作業法	森林総合研究所平成28年版研究成果選集、2016:10-11

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
石橋聡(石橋聡)	2016.10	野幌林業試験場	北方林業、67(3):41
石橋聡(石橋聡)	2016.10	定山溪ミズナラ人工下種林	北方林業、67(3):33-34
石橋聡、古家直行、高橋正義、佐野真琴(佐野真)、鷹尾元(国際農林水産業研究センター)	2016.11	トドマツ植栽密度試験林の成長解析ー植栽本数低減の可能性ー	第65回北方森林学会大会研究発表要旨、P11
KOSUGI Ryota (小杉陵太・北大)、SHIBUYA Masato (渋谷正人・北大)、ISHIBASHI Satoshi (石橋聡)	2016.11	Sixty-year post-windthrow study of stand dynamics in two natural forests differing in pre-disturbance composition (前生林の樹種構成が異なる天然林の風害後60年間の林分動態)	Ecosphere、DOI:10.1002/ecs2.1571
石橋聡(石橋聡)	2017.01	えりも岬国有林	北方林業、68(1):41
高橋正義、細田和男、西園朋広、齋藤英樹、石橋聡、古家直行、小谷英司	2017.03	長期モニタリングデータによるカラマツの成長 特性と環境要因	第128回日本森林学会大会学術講演集、P2-058
石橋聡	2017.03	広葉樹林における循環的木材生産の可能性ータ張広葉樹施業実験林32年間の調査結果からー	第128回日本森林学会大会学術講演集、P204
嶋瀬拓也	2016.08	書評・山口明日香著『森林資源の環境経済史ー近代日本の産業化と木材ー』	林業経済、69(5):22-24
嶋瀬拓也	2016.09	国内合板工業における製品戦略の変遷とその背景	日本中小企業学会大会要旨、36:36
嶋瀬拓也	2016.11	フィンランドにおけるカンパ材利用の現状	山林、1590:35-43
嶋瀬拓也	2016.11	北海道における広葉樹材流通・需要の現状	北方森林学会大会要旨、65:O-01
嶋瀬拓也	2017.02	北海道の森林・林業・木材産業の現状と展望ー針葉樹人工林材の利用をめぐるー	木材情報、309:5-10
嶋瀬拓也	2017.03	地域森林資源の有効利用に向けて	北の森だより、17:2-3
嶋瀬拓也	2017.03	北海道における燃料材需要拡大の影響と需給安定に向けた各主体の取り組み	日本森林学会大会学術講演集、128:P1-006
嶋瀬拓也	2017.03	1960年代以降における国内製材業の展開と素材需要	林業経済研究、63(1):3-14
ISHIBASHI Yasuyuki (石橋靖幸)、OI Toru (大井徹・石川県立大)、ARIMOTO Isao (有本勲・白山ふもと会)、FUJII Takeshi (藤井猛・広島県庁)、MAMIYA Kazuyori (間宮寿頼・富山県自然博物館)、NISHI Nobusuke (西信介・鳥取県林業試験場)、SAWADA Seigo (澤田誠吾・島根県中山間地域研究センター)、TADO Hiroyuki (田戸裕之・山口県農林総合技術センター)、YAMADA Takaki (山田孝樹・四国自然史科学研究センター)	2016.10	Loss of allelic diversity in the MHC class II DQB gene in western populations of the Japanese black bear <i>Ursus thibetanus japonicus</i> (ツキノワグマの西日本個体群におけるMHC遺伝子の多様性低下)	Conservation Genetics、DOI:10.1007/s10592-016-0897-3
山田健	2016.06	育林ロボットの開発ー作業機の精密誘導技術の開発ー	機械化林業、751号:1-8
八木橋勉、中谷友樹(立命館大)、中原健一、那須野俊、檀間岳、野口麻穂子、八木貴信、齋藤智之、松本和馬(国際環境研究協会)、山田健、落合幸仁(住友林業)	2016.08	スギコンテナ苗と裸苗の成長と形状比の関係	日本森林学会誌、98(4):139-145
猪俣雄太、伊藤崇之、鹿島潤、山田健、山口浩和、今富裕樹(東京農業大学)、旗生規(日本森林技術協会)	2016.10	異なる植栽器具使用時のコンテナ苗の植栽能率	日本森林学会誌、98(5):223-226
壁谷大介、宮本和樹、柴田章治(中部整備局)、清野陽介(鹿沼市)、山田健、落合幸仁(無所属)、宇都木玄	2016.10	単一試験地に植栽されたスギコンテナ苗の活着・成長に対する種子供給地域の影響	関東森林学会第6回大会講演要旨集、発表番号94

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<u>山田健、佐々木尚三、古家直行</u> 、小山潤(マーストーケンソリューション)、蓮沼博仁(マーストーケンソリューション)、西村悠馬(マーストーケンソリューション)、中島未羽(マーストーケンソリューション)	2016.11	下刈り作業機械化におけるRFIDによる植栽木識別技術の開発	森林利用学会第23回学術研究発表会・意見交換会講演要旨集、セッション5-2
<u>山田健、佐々木尚三</u> 、倉本恵生、 <u>上村章</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2016.11	クラッシュ地拵えが造林作業にもたらす効果	第65回北方森林学会大会プログラム、p.6
今富裕樹(東京農業大)、旗生規(日本森林技術協会)、猪俣雄太、伊藤崇之、山口浩和、鹿島潤、 <u>山田健</u>	2016.11	身体に応じた植栽器具の柄の長さに関する考察	第23回森林利用学会学術研究発表会要旨集、p10
渡辺一郎(北海道立総合研究機構林業試験場)、八坂通泰(北海道立総合研究機構林業試験場)、対馬俊之(北海道立総合研究機構林業試験場)、巻口公治(北海道造林協会)、寺島幸弘(北海道造林協会)、 <u>山田健、佐々木尚三</u>	2017.03	小型自走式草刈機の林地導入への可能性	第128回日本森林学会大会学術講演集、p.103
<u>山田健、佐々木尚三、古家直行</u> 、鬼武正行(モリトウ)	2017.03	育林ロボット 自動植付機・自動下刈機の開発	第128回日本森林学会大会学術講演集、p.103
<u>北尾光俊</u>	2016.09	高CO ₂ ・オゾン環境における樹木の成長応答	第57回大気環境学会年会講演要旨集、発表番号:1F1615-2
<u>KITAO Mitsutoshi (北尾光俊)</u> 、YASUDA Yukio (安田幸生)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、 <u>YAMANOI Katsumi (山野井克己)</u> 、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、 <u>MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)</u> 、KITAOKA Satoshi (北岡哲・森林総研PD)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、YOSHIMURA Kenichi (吉村謙一・森林総研PD)、KOIKE Takayoshi (小池孝良・北海道大学)、IZUTA Takeshi (伊豆田猛・東京農工大学)	2016.09	Increased phytotoxic O ₃ dose accelerates autumn senescence in an O ₃ -sensitive beech forest even under the present-level O ₃ (オゾン感受性が高いブナの林では現在のオゾン濃度でもオゾン吸収量の増加によって秋の葉の老化が促進される)	Scientific Reports、6:32549 (DOI: 10.1038/srep32549)
<u>北尾光俊、原山尚徳、上村章</u>	2016.11	皆伐後のトドマツ前生稚樹の光阻害	第65回北方森林学会大会、P-21
平岡裕一郎、井城泰一、能勢美峰、飛田博順、矢崎健一、渡辺敦史(九州大学)、藤澤義武(鹿児島大学)、 <u>北尾光俊</u>	2016.11	高O ₃ 及び高CO ₂ 環境下におけるスギクローンの成長と光合成	森林遺伝育種学会第5回大会講演要旨集、17

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
KITAO Mitsutoshi (北尾光俊) 、YASUDA Yukio (安田幸生)、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、KITAOKA Satoshi (北岡哲・森林総研PD)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、YOSHIMURA Kenichi (吉村謙一・森林総研PD)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、 MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子) 、 YAMANOI Katsumi (山野井克己) 、KOIKE Takayoshi (小池孝良・北海道大学)、IZUTA Takeshi (伊豆田猛・東京農工大学)	2017.02	Flux-Based O3 Risk Assessment for Japanese Temperate Forests (日本の温帯林における吸収量ベースのオゾンリスク評価)	Air Pollution Impacts on Plants in East Asia, DOI: 10.1007/978-4-431-56438-6
北尾光俊	2017.03	オゾン吸収量に基づいた森林のCO2吸収量に対するオゾンの影響評価	第128回日本森林学会大会要旨集、S10-8
HIRAOKA Yuichiro (平岡裕一郎)、IKI Taiichi (井城泰一)、NOSE Mine (能勢美峰)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、WATANABE Atsushi (渡辺敦史・九州大学)、FUJISAWA Yoshitake (藤澤義武・鹿児島大学)、 KITAO Mitsutoshi (北尾光俊)	2017.03	Species characteristics and intraspecific variation in growth and photosynthesis of <i>Cryptomeria japonica</i> under elevated O3 and CO2 (高O3・CO2環境下におけるスギの成長と光合成の種特性と種内変異)	Tree Physiology:1-11、doi.org/10.1093/treephys/tpx028
田中憲蔵、梶本卓也、齊藤哲、川崎達郎、小松雅史、壁谷大介、矢崎健一、太田敬之、田淵隆一、松本陽介、宇都木玄、酒井武、飛田博順、 伊東宏樹 、大橋伸太、黒田克史、高野勉、赤間亮夫、高橋正通	2016.03	福島原発事故で汚染された森林における様々な樹木種の放射性セシウム濃度	関東森林研究、67(1):45-48
伊東宏樹 、松井哲哉、飛田博順、五十嵐哲也、小川明穂(元森林総研)、松浦陽次郎	2016.06	伊豆大島2013年10月16日斜面崩壊発生地点周辺の樹木の現存量	森林総合研究所研究報告、15(1-2):21-30
伊東宏樹	2016.07	状態空間モデルの実行方法と実行環境の比較	日本生態学会誌、66(2):361-374
吉丸博志、勝木俊雄、岩本宏二郎、加藤珠理、松本麻子、長谷川絵里、佐橋憲生、秋庭満輝、 伊東宏樹 、 石原誠 、高畑義啓、河原孝行、赤間亮夫、阿部恭久(日本大学)、石尾将吾(住友林業)、中村健太郎(住友林業)	2016.10	サクラ栽培品種の分類体系の再編と遺伝資源管理への貢献	森林総合研究所第3期中期計画成果集、86-87

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
正木隆、 伊東宏樹 、酒井武、北川涼(元森林総研PD)、大野泰之(北海道立総合研究機構林業試験場)、新田響平(秋田県林業研究研修センター)、上野満(山形県森林研究研修センター)、塚原雅美(新潟県森林研究所)、清水香代(長野県林業総合センター)、大洞智宏(岐阜県森林研究所)、渡邊仁志(岐阜県森林研究所)、相浦英春(富山県農林水産総合技術センター)、山下由美子(和歌山県林業試験場)、石川実(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)、箕口秀夫(新潟大学)、水永博己(静岡大学)、速水亨(株式会社森林再生システム)、横井秀一(岐阜県立森林文化アカデミー)	2016.10	人工林を安全・確実に広葉樹林へと誘導するための新しいツールを開発	平成28年版 研究成果選集 2016、12-13
ITO Hiroki (伊東宏樹)	2016.12	Changes in understory species occurrence of a secondary broadleaved forest after mass mortality of oak trees under deer foraging pressure(シカ採食圧下における、ナラ枯れ後の広葉樹二次林での下層種出現の変化)	PeerJ、4:e2816
勝木俊雄、九島宏道、島田和則、岩本宏二郎、大中みちる(森林総研非常勤職員)、星野大介、 伊東宏樹	2017.03	関東南部の高齢の放置二次林における林冠構成種の16年間の変化	日本森林学会大会学術講演集、128:257
伊東宏樹	2017.03	Time series data of a broadleaved secondary forest in Japan as affected by deer and mass mortality of oak trees(シカとナラ枯れの影響を受けた広葉樹二次林の時系列データ)	Biodiversity Data Journal、5:e11732
伊東宏樹 、隅田明洋(北海道大学)	2017.03	Allometric and growth data of an evergreen oak, <i>Quercus glauca</i> , in a secondary broadleaved forest(広葉樹二次林におけるアラカシのアロメトリーおよび成長データ)	Ecological Research、32(2):105
伊東宏樹	2017.03	ナラ枯れ被害林分におけるシカ柵の効果	第128回日本森林学会大会:T5-3
伊東宏樹 、大住克博(鳥取大学)	2017.03	大津市北部における、シカ採食を受けるナラ枯れ跡地の下層植生	第64回日本生態学会大会:P2-M-369
滝久智、池田紘士(弘前大)、 永光輝義 、安田美香(森林総研PD)、杉浦真治(神戸大)、前藤薫(神戸大)、岡部貴美子	2016.04	Stable nitrogen and carbon isotope ratios in wild native honeybees: the influence of land use and climate(野生ミツバチの窒素と炭素安定同位体比:土地利用と気候の影響)	Biodiversity and Conservation、doi:10.1007/s10531-016-1114-x
SUGAI Kyoko(須貝杏子)(森林総合研究所PD)、SUZUKI Setsuko(鈴木節子)、 NAGAMITSU Teruyoshi(永光輝義) 、MURAKAMI Noriaki(村上哲明・首都大学東京)、KATO Hidetoshi(加藤英寿・首都大学東京)、YOSHIMARU Hiroshi(吉丸博志)	2016.07	Gene flow between genetically differentiated groups of <i>Elaeocarpus photiniifolia</i> (Elaeocarpaceae) on Chichijima Island, Japan.(遺伝的に分化した父島のシマホルトノキにおけるグループ間の遺伝子流動)	Arquipelago. Life and Marine Sciences.、9:510

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
SUZUKI Setsuko (鈴木節子)、OHTANI Masato (大谷雅人・兵庫県立人と自然の博物館)、SUGAI Kyoko (須貝杏子・森林総研PD)、 NAGAMITSU Teruyoshi (永光輝義) 、KATO Hidetoshi (加藤英寿・首都大学東京)、YOSHIMARU Hiroshi (吉丸博志)	2016.07	Genetic variation of <i>Terminalia catappa</i> , pantropical plants with sea-drifted seeds, in the Bonin Islands(小笠原における汎熱帯性樹木モモタマナの遺伝的変異)	Arquipelago. Life and Marine Sciences., 9:509
正木隆、五十嵐哲也、 永光輝義 、菊地賢、升屋勇人、神崎菜摘、長谷川元洋、加賀谷悦子、滝久智	2016.10	林業地域の中で生物多様性を保全する広葉樹林	森林総合研究所第3期中期計画成果集、66-67
NAGAMITSU Teruyoshi (永光輝義) 、YASUDA Mika (安田美佳・森林総研PD)、SAITO-MOROOKA Fuki (斎藤蒔・茨城大)、INOUE MAKI N (井上真紀・東工大)、NISHIYAMA Mio (西山美緒・国環研)、GOKA Koichi (五箇公一・国環研)、SUGIURA Shinji (杉浦真司・神戸大)、MAETO Kaoru (前藤薫・神戸大)、OKABE Kimiko (岡部貴美子)、TAKI Hisatomo (滝久智)	2016.11	Genetic Structure and Potential Environmental Determinants of Local Genetic Diversity in Japanese Honeybees (<i>Apis cerana japonica</i>)(ニホンミツバチの遺伝構造と地域の遺伝的多様性の潜在的環境要因)	PLOS One、11:e0167233
NAGAMITSU Teruyoshi (永光輝義)	2017.02	Genetic structure in chloroplast and nuclear microsatellites in <i>Rosa rugosa</i> around sea straits in northern Japan(北日本の海峡周辺のハマナスにおける葉緑体と核のマイクロサテライトの遺伝構造)	Plant Species Biology、DOI: 10.1111/1442-1984.12167
滝久智、池田紘士(弘前大)、 永光輝義 、安田美香(森林総研PD)、杉浦真治(神戸大)、前藤薫(神戸大)、岡部貴美子	2017.03	全国調査で明らかとなったニホンミツバチの蜜素と炭素の安定同位体比	日本生態学会第64回大会、P2-C-120
滝久智、安田美香(森林総研PD)、 永光輝義	2017.03	ニホンミツバチへの農薬影響	第61回日本応用動物昆虫学会大会、W012
須貝杏子(島根大)、鈴木節子、 永光輝義 、村上哲明(首都大)、加藤英寿(首都大)、吉丸博志	2017.03	シマホルトノキの生態的分化に及ぼす遺伝と環境の効果	第64回日本生態学会大会、P2-L-346
永光輝義	2017.03	花粉と種子の流動: 遺伝標識を用いた散布研究の総括と展望	第64回日本生態学会大会、T03-1
北村系子	2016.06	北進するブナを山スキーで追いかける	森林遺伝育種、5(4):243-244
田中信行(農大)、井関智裕(東京植生研究会)、 北村系子 、齋藤均(黒松内町)、 津山幾太郎 、中尾勝洋、松井哲哉	2016.06	北海道におけるブナの潜在生育域と分布北限個体群の実態	森林立地、51(1):9-15
北村系子 、松井哲哉、小林誠(十日町市)、齋藤均(黒松内町)、並川寛司(北海道教育大)、津田吉晃(筑波大)	2016.06	ブナ北限集団の遺伝的多様性と北進過程	森林立地、51(1):1-7
久本洋子(東大)、 北村系子 、後藤晋(東大)	2016.11	トドマツにおける開花およびストレス関連遺伝子発現の季節変動	森林遺伝育種学会、21
北村系子	2017.01	ブナ北限地帯の遺伝的多様性と集団分化—分布拡大における多様性の減少と黒松内低地帯—	北海道の林木育種、59(1):6-10
北村系子 、津田吉晃(筑波大)、並川寛司(北海道教育大)、松井哲哉、小林誠(十日町市)	2017.03	島嶼ブナ北限奥尻島集団の遺伝的多様性と分化	森林学会大会、P1-196

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
田中信行(農大)、 北村系子 、 津山幾太郎 、中尾勝洋、松井哲哉、井関智裕(東京植生研究会)、斎藤均(黒松内町)	2017.03	ブナの潜在生育域の気候条件と分布北限個体群の実態	第64回日本生態学会大会、P2-O-423
関剛	2016.09	Evaluation of thermal conditions for the explanation of annual variation in the seed-cone bud production of <i>Abies sachalinensis</i> (トドマツの雌花芽生産における年次間変動を説明する温度条件の評価)	Abies 2016: the 15th international conference on ecology and silviculture of fir、p.50
関剛	2017.03	Effect of branch mass on shoot elongation in the upper part of the crown of <i>Abies</i> canopy trees(モミ属林冠木の樹冠上部におけるシュートの伸長に対して枝の重量が及ぼす影響)	日本生態学会第64回大会講演要旨、P2-O-437
KOIDE Dai(小出大・国立環境研究所)、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、OHASHI Haruka(大橋春香・森林総研PD)、 TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎) 、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・東京農業大学)	2016.04	Spatiotemporal projection of suitable climatic conditions for tree regeneration and growth using niche differences between adult and juvenile trees(成木と幼木のニッチの違いを考慮した更新に適した気候条件の時空間変化予測)	The 7th EAFES International Congress (Abstract Book)、p.265
MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、NAKAZONO Etsuko(中園悦子・東京大学)、 TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎) 、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)、KOIDE Dai(小出大・国立環境研究所)、KOMINAMI Yuji(小南裕志)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・東京農業大学)	2016.04	Climate change impact assessment, monitoring and adaptation plans for Japanese natural forests(日本の天然林における気候変化に対する影響評価、モニタリングおよび適応策)	The 7th EAFES International Congress (Abstract Book)、p.266
OHASHI Haruka(大橋春香・森林総研PD)、KOMINAMI Yuji(小南裕志)、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)、KOIDE Dai(小出大・国立環境研究所)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、 TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎) 、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・東京農業大学)	2016.09	Land abandonment and changes in snow cover period accelerate range expansions of sika deer(土地利用放棄と積雪期間の時間変化がシカの分布拡大を助長する)	Ecology and Evolution、DOI: 10.1002/ece3.2514
UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、FUJII Sayaka(藤井沙耶花・環境省)、 TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎) 、SUZUKI Setsuko(鈴木節子)、MORIGUCHI Yoshinari(森口義成・新潟大学)、KIMURA K Megumi(木村恵)、TSUMURA Yoshihiko(津村義彦・筑波大学)	2016.09	Range shift and introgression of three Japanese <i>Abies</i> species : insights from microsatellite, mtDNA and species distribution modelling(日本産モミ属3種における分布シフトと浸透交雑: マイクロサテライト、ミトコンドリアDNAおよび分布予測モデルからの考察)	The 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir、p.41
津山幾太郎 、 石橋聡	2016.11	トドマツ人工林の地位を環境要因から推定する	第65回北方森林学会大会要旨、P-11
津山幾太郎	2016.12	気候変化と植物の分布	札幌大学・森林総合研究所合同講座、L1

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
高野(竹中)宏平(元森林総研PD、現長野県環境保全研)、大塚孝一(長野県環境保全研)、尾関雅章(長野県環境保全研)、 <u>津山幾太郎</u> 、中尾勝洋、田中信行(東京農大)、松井哲哉	2017.03	林床植物ベニシダ(<i>Dryopteris erythrosora</i> 、オシダ科)の長野県における分布拡大に対する気候変動影響の検出	林床植物ベニシダ(<i>Dryopteris erythrosora</i> 、オシダ科)の長野県における分布拡大に対する気候変動影響の検出
<u>津山幾太郎</u>	2017.03	コメツガの分布を規定する要因は何か?～第四紀氷期の気候が現在の分布域に及ぼす影響～	第64回日本生態学会講演要旨集、W16-2
後藤晋(東京大学)、石塚航(北海道林業試験場)、種子田春彦(東京大学)、河野優(東京大学)、鐘ヶ江弘美(東京大学)、岩田洋佳(東京大学)、上野真義、内山憲太郎、久本洋子(東京大学)、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>北村系子</u>	2017.03	トドマツの標高適応に関連する生理形質の連鎖解析	日本森林学会大会学術講演集、128:E9
<u>中西敦史</u>	2016.04	温帯広葉樹における花粉と種子を介した遺伝子散布に関する研究(第3回森林遺伝育種学会奨励賞受賞研究)	森林遺伝育種、5(2):67-72
INANAGA Michiko(稲永路子・秋田県立大)、KOYAMA Yasuhiro(小山泰弘・長野県)、IDA Hideyuki(井田秀行・信州大)、OKADA Mitsuhiro(岡田充弘・長野県)、 <u>NAKANISHI Atsushi(中西敦史)</u> 、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、TOMARU Nobuhiro(戸丸信弘・名大院生命農)	2016.06	Pollen dispersal patterns and population persistence in a small isolated population of <i>Fagus crenata</i> (ブナ孤立小集団における花粉散布パターンと集団存続性)	Tree Genetics & Genomes、DOI 10.1007/s11295-016-1026-7
<u>中西敦史</u> 、道端亜貴美(愛知県)、伊丹哉恵(愛知県)	2016.07	エリンギの高品質化栽培技術の開発	愛知県森林・林業技術センター報告、53:34-40
<u>中西敦史</u> 、 <u>永光輝義</u> 、 <u>北村系子</u>	2016.11	択伐施業林におけるカツラ集団の遺伝的多様性	第65回北方森林学会大会プログラム、O-06
<u>中西敦史</u> 、 <u>永光輝義</u> 、 <u>北村系子</u>	2017.02	択伐施業林におけるカツラ集団の遺伝的多様性	北方森林研究、65:13-16
<u>中西敦史</u> 、 <u>北村系子</u> 、上野真義、倉本恵生、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、飯田滋生	2017.03	遺伝学的手法を用いたシラカンバの侵入パターンの検証	第128回日本森林学会大会学術講演集、E7
<u>相澤州平</u>	2016.10	森林総合研究所北海道支所での長期林地肥培試験	北方林業、67(3):21-24
<u>相澤州平</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>橋本徹</u> 、延廣竜彦、阪田匡司、阿石塚成宏、田中永晴、稲富素子(森林総研PD)、金子真司、三浦寛、古澤仁美、山田毅、平井敬三、志知幸治、 <u>相澤州平</u> 、池田重人、篠宮佳樹	2017.02	定山溪森林理水試験地における無機態窒素流出負荷量の長期変動	北方森林研究、65:73-74
石塚成宏、田中永晴、稲富素子(森林総研PD)、金子真司、三浦寛、古澤仁美、山田毅、平井敬三、志知幸治、 <u>相澤州平</u> 、池田重人、篠宮佳樹	2017.03	炭素窒素蓄積量測定における4点土壌試料混合の影響と評価	日本森林学会大会学術講演集、128:275
<u>上村章</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、 <u>北尾光俊</u>	2016.11	カラマツコンテナ苗の低コスト促成栽培試験	第65回北方森林学会大会、P-06
<u>上村章</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、 <u>北尾光俊</u>	2017.03	カラマツコンテナ苗の根系成長	第128回日本森林学会講演要旨集、P246
<u>橋本徹</u>	2017.03	法面における土壌CO ₂ フラックスに対する渗出地下水の影響	第64回日本生態学会大会要旨、P2-N-388
<u>橋本徹</u> 、 <u>相澤州平</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、倉本恵生	2017.03	グラップルバケットによる地掻き後の土壌断面形態	北方森林研究、65:69-72
<u>ITO Eriko(伊藤江利子)</u> 、MIURA Satoru(三浦寛)、AOYAMA Michio(青山道夫・福島大)、SHICHI Koji(志知幸治)、ONO Kenji(小野賢二)	2016.05	How much the radiocesium fallout remain in forest surface soils?(大気圏核実験で降下した放射性セシウムは森林土壌にどの程度留まっているか)	日本地球惑星科学連合2016年大会予稿集、MAG24-06
大貫靖浩、 <u>伊藤江利子</u> 、鳥山淳平、壁谷直記、飯田真一	2016.09	2015-16スーパーエルニーニョはカンボジア熱帯平地形の立地環境に影響を及ぼしたか?	日本地理学会発表要旨集、90、p86

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
平田泰雅、ルイス・アルベルト・イスワイラス、門田有佳子(京都大学)、斉藤昌宏(元森林総研)、鷹尾元(国際農林水産業研究センター)、齋藤英樹、高橋正義、松浦俊也、佐藤保、清野嘉之、新山馨、鳥山淳平、 <u>伊藤江利子</u> 、大谷達也	2016.10	途上国で森林の炭素蓄積量変化を把握する	第3期中期計画成果選集、52-53
長倉淳子、古澤仁美、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>相澤州平</u>	2016.10	37年間連続施肥を受けたウダイカンバとトマツの養分状態	関東森林学会大会講演要旨集、49
MONDA Yukako(京都大学・門田有佳子)、 <u>ITO Eriko</u> (<u>伊藤江利子</u>)、KIYONO Yoshiyuki(清野嘉之)、SATO Tamotsu(佐藤保)、TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平)、Heng Sokh(カンボジア森林局)、Sopha Chann(カンボジア森林局)、TITH Bora(カンボジア森林局)、KETH Samkol(カンボジア森林局)、PHALLAPHEARAOTH Op(カンボジア森林局)、BOUNTHABANDID Soukanh(ラオス森林局)	2016.10	Allometric Equations for Tropical Seasonal Deciduous Forests in Cambodia: A Method of Estimating Belowground Tree Biomass with Reduced Sampling Loss of Roots(カンボジアの季節性熱帯落葉林におけるアロメトリ式—根のサンプリングロスを減らす地下部バイオマス推定手法)	JARQ-Japan Agricultural Research Quarterly、50:369-377
<u>ITO Eriko</u> (<u>伊藤江利子</u>)、Sopha CHANN(カンボジア森林局)、Bora TITH(カンボジア森林局)、Samkol KETH(カンボジア森林局)、Chandararity LY(カンボジア森林局)、Phallaphearaoth OP(カンボジア森林局)、 <u>FURUYA Naoyuki</u> (<u>古家直行</u>)、MONDA Yukako(門田有佳子・京都大)	2016.12	Reproductive size thresholds of dipterocarps in Cambodian dry forests.(カンボジア乾燥林におけるフタバガキ科樹種の繁殖開始サイズ)	Cambodian Journal of Natural History、2016(2):98-101
三浦覚、 <u>伊藤江利子</u> 、青山道夫(福島大学)、志知幸治	2017.03	日本の森林土壌中のグローバルフールアウト	第128回日本森林学会大会学術講演集、87
<u>ITO Eriko</u> (<u>伊藤江利子</u>)、Sopha CHANN(カンボジア森林局)、Bora TITH(カンボジア森林局)、Samkol KETH(カンボジア森林局)、Chandararity LY(カンボジア森林局)、Phallaphearaoth OP(カンボジア森林局)、 <u>FURUYA Naoyuki</u> (<u>古家直行</u>)、MONDA Yukako(門田有佳子・京都大)	2017.03	Reproductive size thresholds of dipterocarps in Cambodian dry forests(カンボジア乾燥林におけるフタバガキ科樹木の繁殖サイズ)	日本生態学会大会講演要旨集、64:P2-M-373

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
KIYONO Yoshiyuki (清野嘉之)、 <u>ITO Eriko (伊藤江利子)</u> 、MONDA Yukako (門田有佳子・宮崎大学)、TORIYAMA Jumpei (鳥山淳平)、SAITO Hideki (齋藤英樹)、 <u>FURUYA Naoyuki (古家直行)</u> 、Sum Thy (カンボジア環境省)、Tith Bora (カンボジア森林局)、Keth Nang (カンボジア森林局)、Keth Samkol (カンボジア森林局)、Chandararity Ly (カンボジア森林局)、Phallaphearaoth Op (カンボジア森林局)、Chann Sophal (カンボジア森林局)、Sokh Heng (カンボジア森林局)	2017.03	A feasibility study for determining the mean annual aboveground biomass gain of tropical seasonal forests in Cambodia(カンボジア熱帯季節林の年平均地上部バイオマス増加量を定めるための事前調査)	TROPICS、25(4):127-138
<u>HARAYAMA Hisanori (原山尚徳)</u> 、ISHIDA Atsushi (石田厚・京大学生態学研究センター)、YOSHIMURA Jin (吉村仁・静岡大学)	2016.07	Overwintering evergreen oaks reverse typical relationships between leaf traits in a species spectrum(冬季常緑カシ類では、地球規模で認められる葉特性間の関係が反転している)	Royal Society Open Science、3:160276(DOI:10.1098/rsos.160276)
<u>原山尚徳</u> 、来田和人(道総研林試)、今博計(道総研林試)、石塚航(道総研林試)、飛田博順、宇都木玄	2016.08	異なる時期に植栽したカラマツコンテナ苗の生存率、成長および生理生態特性	日本森林学会誌、98(4):158-166
宇都木玄、飛田博順、壁谷大介、陣川雅樹、 <u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、八木橋勉、奥田史郎、重永英年、松田修(九州大学)、大矢信次郎(長野県)	2016.10	コンテナ苗を利用した一貫作業で再造林の低コスト化へ挑戦	森林総合研究所第3期中期計画成果集、6-7
<u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、 <u>北尾光俊</u>	2016.11	トドマツ人工林皆伐後のトドマツ前生稚樹の水分生理状態	第65回北方森林学会大会、P-04
<u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、韓慶民、 <u>北尾光俊</u>	2017.02	トドマツ人工林皆伐後にトドマツ前生稚樹が枯死する要因	平成28年度京大学生態学研究センター公募ワークショップ「樹木の乾燥枯死・樹病枯死メカニズムの解明と温暖化等による乾燥影響評価」要旨集、5p
<u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、倉本恵生、 <u>北尾光俊</u> 、 <u>山田健</u> 、 <u>佐々木尚三</u> 、宇都木玄	2017.03	下草との競合状態がカラマツ植栽苗の初期成長に及ぼす影響	第128回日本森林学会大会要旨集、P2-110
小南裕志、 <u>山野井克己</u> 、北村兼三、深山貴文、 <u>溝口康子</u> 、高梨聡、三枝信子(国環研)、高橋善幸(国環研)、KIM Wonsik(農環研)、宮田明(農環研)、小野啓介(農環研)、石戸谷重(産総研)、近藤宏明(産総研)、前田貴久(産総研)、村山昌平(産総研)、PANUTHAI Samreong(タイ自然環境局)、ARCHAWAKOM Taksin(タイ科学技術院)	2016.06	Network connection of tower flux measurement data:Toward long term stable flux measurement(フラックス測定データのネットワーク化ー長期安定観測に向けてー)	JPGU(地球惑星連合)2016講演予稿集、AAS01-12
<u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u> 、宇都木玄	2016.07	攪乱を受けた森林の炭素収支の長期変動について	北方林業、67(2):70-73

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
深山貴文、 <u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u> 、安田幸生、野口宏典、小南裕志、北村兼三、森下智陽、安宅未央子(森林総研PD)、吉村謙一(京大農)、松本一穂(琉大農)、高梨聡、和田龍一(帝京科学大生命環境)、吉藤奈津子、岡野通明	2016.09	多様な森林に立地するフラックスタワー群を用いたBVOC観測ネットワークの概要	第57回大気環境学会年会講演要旨集、308
<u>YAMANOI Katsumi (山野井克己)</u> 、 <u>MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)</u>	2016.10	Geographical variation of forest carbon budget under the changing climate in Japan(日本における気候変動にともなう森林の炭素収支の地域差)	IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 ABSTRACTS、p.78
<u>溝口康子</u> 、 <u>山野井克己</u>	2016.07	攪乱が森林のCO2収支に与える影響	平成27年度北の国・森林づくり技術交流発表集、p.180-183
<u>溝口康子</u> 、 <u>山野井克己</u> 、安田幸生、大谷義一、渡辺力(北海道大学)、小南裕志	2016.08	植物が光合成に利用可能な光の量の新たな推定法	森林総合研究所 平成28年度版研究成果選集、36-37
<u>MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)</u> 、 <u>YAMANOI Katsumi (山野井克己)</u>	2016.10	Influence of disturbances on GPP in a deciduous broadleaf forest: Extrapolating photosynthetic parameters from long-term CO2 flux monitoring data(落葉広葉樹林におけるGPPに対する攪乱の影響ー長期CO2フラックスモニタリングデータからの光合成パラメータ推定ー)	IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 ABSTRACTS、77-78
<u>延廣竜彦</u> 、坪山良夫、久保田多余子、玉井幸治	2016.06	茨城県北部のヒノキ林における間伐に伴う林分構造と樹冠通過雨量の変化	水利科学、60(2):1-11
IIDA Shin'ichi (飯田真一)、Delphis F. Levia (University of Delaware)、SHIMIZU Akira (清水晃)、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、TAMAI Koji (玉井幸治)、 <u>NOBUHIRO Tatsuhiko (延廣竜彦)</u> 、KABEYA Naoki (壁谷直記)、NOGUCHI Shoji (野口正二)、SAWANO Shinji (澤野真治)、ARAKI Makoto (荒木誠)	2016.12	Rainfall interception at the intrastorm scale: insights from a mature coniferous forest(降雨中の遮断過程：壮齡針葉樹林における知見)	American Geophysical Union Fall Meeting 2016、H31E-1428
<u>延廣竜彦</u>	2017.02	上川南部のカラマツ林で行った地がき施業が土砂発生量・流出量に及ぼす影響	北方森林研究、65:79-80
<u>延廣竜彦</u>	2017.03	平成28年度森林総合研究所北海道地域研究成果発表会発表集 2.森林の間伐と水源涵養機能	北の森だより、17:4-5
<u>延廣竜彦</u> 、 <u>佐々木尚三</u>	2017.03	上川南部人工林の地がきと土砂発生・流出の関係	日本森林学会学術講演集、128:P2-227
<u>佐藤重穂</u>	2016.06	四国のツキノワグマの現状	SOS!四国のツキノワグマ講演要旨集、2
<u>佐藤重穂</u>	2016.07	四国のツキノワグマの状況	Bears Japan、17(1):6-7

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
NIWA Shigeru (丹羽 慈・自然環境研究センター)、TOYOTA Ayu (豊田 鮎・自然環境研究センター)、KISHIMOTO Toshio (岸本年郎・自然環境研究センター)、SASAKAWA Kōji (笹川幸治・東京大学大学院)、ABE Shin (阿部 真)、CHISHIMA Takeshi (千嶋 武・東京大学)、HIGA Motoki (比嘉基紀)、HIURA Tsutomu (日浦 勉・北海道大学)、HOMMA Kosuke (本間航介・新潟大学)、HOSHINO Daisuke (星野大介)、IDA Hideyuki (井田秀行・信州大学)、KAMATA Naoto (鎌田直人・東京大学)、KANEKO Yohei (金子洋平・新潟大学)、KAWANISHI Motohiro (川西基博・鹿児島大学)、KOBAYASHI Kazutaka (小林和貴・東北大学)、KUBOTA Kaname (久保田 要・宮崎大学)、KURAJI Koichiro (蔵治光一郎・東京大学)、MASAKI Takashi (正木隆)、NIYAMA Kaoru (新山 馨)、NOGUCHI Mahoko (野口麻穂子)、NOMIYA Haruto (野宮治人)、SAITO Satoshi (齊藤 哲)、SAKIMOTO Michinori (寄本道徳・京都大学)、SAKIO Hitoshi (崎尾均・新潟大学)、 SATO Shigeo (佐藤重徳) 、SHIBATA Mitsue (柴田 鏡江)、TAKASHIMA Atsushi (高嶋敦史・琉球大学)、TANAKA Hiroshi (田中 浩)、TASHIRO Naoaki (田代直明・九州大学)、TOKUCHI Naoko (徳地直子・京都大学)、TORIKAI Hisahiro (鳥飼久弘・奄美野鳥の会)、YOSHIDA Toshiya (吉田俊也・北海道大学)	2016.09	Monitoring of the ground-dwelling beetle community and forest floor environment in 22 temperate forests across Japan. (日本全国22ヶ所の温帯林における地表徘徊性甲虫群集および林床環境のモニタリング)	Ecological Research, 31:607-608
佐藤重徳 、濱田哲暁(東洋電化テクノロジー)、谷岡仁(香美市在住)	2016.09	外来種サンジャクの四国南西部における野生化と定着状況	日本鳥学会2016年度大会講演要旨集、191
佐藤重徳 、三浦美知代(ダイビング三浦)、喜多村鷹也(愛媛大学)、木村宏(日本野鳥の会高知支部)	2016.10	高知県大月町におけるナンキンオシ Nettapunus coromandelis の観察記録	日本鳥学会誌、65:177-180
松本剛史、 佐藤重徳	2016.10	材変色被害をもたらすキバチ類および共生菌の繁殖生態	第67回応用森林学会研究発表要旨集、67:23(B07)
佐藤重徳	2016.11	北海道におけるキバチ類による針葉樹の材変色被害	樹木医学会第21回大会講演要旨集、36
谷地森秀二(四国自然史科学研究センター)、谷岡仁(香美市在住)、山田孝樹(四国自然史科学研究センター)、山崎浩司(四国自然史科学研究センター)、松田裕祐(鏡川自然塾)、近藤英文(鏡川自然塾)、 佐藤重徳	2016.12	はしっこプロジェクト2014～2016の結果ー四国山地ツキノワグマ生息分布域の把握ー	第109回土佐生物学会講演要旨集、21
松本剛史、 佐藤重徳	2017.02	エタノールと α -pinene を誘引源とするトラップからの温度依存的な発散動態	応用森林研究、26(1)、9-12
佐藤重徳	2017.03	トドマツオオアブラムシによるトドマツ若齢木の被害と保育コストの増加	第61回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、185
佐藤重徳 、尾崎研一、 稲荷尚記(森林総研PD) 、 佐山勝彦	2017.03	トドマツ新植造林地におけるトドマツオオアブラムシと随伴アリの関係	日本生態学会第64回大会講演要旨、I01-01
尾崎研一、庄子康(北海道大学)、明石信廣(道総研林業試験場)、 佐藤重徳 、 稲荷尚記(森林総研PD)	2017.03	北海道におけるセンサーカメラを用いた山菜利用者の動態把握	第128回日本森林学会大会講演要旨集、PR0212
松本剛史、 佐藤重徳	2017.03	共生菌接種スギ生立木へのオナガキバチの産卵試験	第128回日本森林学会大会学術講演集、ページ未定
石原誠	2016.03	ソメイヨシノコンパクト苗の作出と、コンパクト苗を用いたサクラ類こぶ病に対する抵抗性崩壊の再現	第128回日本森林学会大会講演要旨、PR0448
石原誠 、 松浦友紀子	2017.02	ヤナギ超短伐期施業時の獣害の回避法ー薬剤施用の忌避効果についてー	北方森林研究、65:63-64

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
KURUSHIMA Hiroaki (久留島 宏明・首都大学東京)、YOSHIMURA Jin (吉村仁・静岡大学)、Jeong-Kyu KIM (National Institute of Ecology, ROK)、Jong-Kuk KIM (Kangwon National University, ROK)、NISHIMOTO Yutaka (西本裕・宝塚市)、 <u>SAYAMA Katsuhiko (佐山勝彦)</u> 、KATO Manabu (加藤学・津山市)、WATANABE Kenta (渡邊謙太・沖縄工業高等専門学校)、HASEGAWA Eisuke (長谷川英佑・北海道大学)、Derek A. ROFF (University of California, USA)、SHIMIZU Akira (清水晃・首都大学東京)	2016.08	Co-occurrence of ecologically equivalent cryptic species of spider wasps (生態的に同等なクモバチ隠蔽種の共存)	Royal Society Open Science、3:160119、DOI:10.1098/rsos.160119
<u>佐山勝彦</u> 、小坂肇、牧野俊一	2017.01	スズメバチの新たな天敵:女王バチを不妊にして操る寄生線虫	北方林業、68(1):32-35
<u>佐山勝彦</u> 、高谷文仁(北海道大学植物園)	2017.01	北海道大学植物園のキイロスズメバチ女王におけるスズメバチタマセンチュウの寄生状況	日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催北海道支部大会講演要旨(2016年度)、5
<u>松浦友紀子</u> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、宇野裕之(道総研)、赤坂猛(酪農学園大学)、鈴木正嗣(岐阜大学)、東谷宗光(エゾシカ協会)、ノーマン・ヒーリー(Forestry Commission England)	2016.06	シンポジウム「森を創るために人を育むー野生動物管理の担い手像ー」	哺乳類科学、56(1):61-69
池田敬(北海道大学)、児玉大夢(酪農学園大学)、 <u>松浦友紀子</u> 、高橋裕史、東谷宗光(エゾシカ協会)、丸智明(酪農学園大学)・吉田剛司(酪農学園大学)・伊吾田宏正(酪農学園大学)	2016.06	ニホンジカの効率的な捕獲に向けた醬油の選択効果の検証	哺乳類科学、56:47-52
七條知也(酪農大)、伊吾田宏正(酪農大)、 <u>松浦友紀子</u> 、高橋裕史、池田敬(農工大)、東谷宗光(エゾシカ協会)、梶光一(農工大)、吉田剛司(酪農大)	2016.09	北海道洞爺湖中島エゾシカ個体群における枝角の発達成長について	日本哺乳類学会2016年度大会プログラム・講演要旨集、188
上野真由美(道総研環境研)、飯島勇人(山梨森林総研)、竹下和貴(農工大)、高橋裕史、吉田剛司(酪農大)、上原裕世(酪農大)、伊吾田宏正(酪農大)、 <u>松浦友紀子</u> 、池田敬(国総研)、東谷宗光(エゾシカ協会)、梶光一(農工大)	2016.09	高密度ニホンジカ個体群の不安定な動態:密度と冬季気象の影響	日本哺乳類学会2016年度大会プログラム・講演要旨集、80
高橋裕史、 <u>松浦友紀子</u> 、伊吾田宏正(酪農大)、池田敬(国総研)、東谷宗光(エゾシカ協会)	2016.09	ニホンジカ低密度実現・維持に向けた課題 その2	日本哺乳類学会2016年度大会プログラム・講演要旨集、65
池田敬(北大)、内田健太(北大)、 <u>松浦友紀子</u> 、高橋裕史、吉田剛司(酪農大)、梶光一(農工大)、小泉逸郎(北大)	2016.10	Seasonal and diel activity patterns of eight sympatric mammals in northern Japan revealed by an intensive camera-trap survey (カメラトラップ調査により明らかにされた北日本で同所的に生息する8種の哺乳類における日周活動性の季節変化)	PLOS ONE、11(10):e0163602
<u>松浦友紀子</u>	2016.10	スマートディアを生まない射撃	エゾシカ協会News Letter、41:5
<u>松浦友紀子</u>	2016.10	今後のニホンジカ管理に求められる人材とその育成	地方議会人、47(5):24-26

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
TAKESHITA Kazutaka (竹下和貴・農工大)、IKEDA Takashi (池田敬・国総研)、TAKAHASHI Hiroshi (高橋裕史)、YOSHIDA Tsuyoshi (吉田剛司・酪農大)、IGOTA Hiromasa (伊吾田宏正・酪農大)、 MATSUURA Yukiko (松浦友紀子) 、KAJI Koichi (梶光一・農工大)	2016.10	Comparison of drive counts and mark-resight as methods of population size estimation of highly dense sika deer (<i>Cervus nippon</i>) populations(ニホンジカ高密度個体群の個体数推定方法としての追い出し法とマークリサイト法の比較)	PLoS ONE、e0164345. doi:10.1371/journal.pone.0164345
松浦友紀子	2017.03	ニホンジカの生物学—繁殖—	林業と薬剤、219:17-23
OZAKI Kenichi (尾崎研一)、YAMAURA Yuichi (山浦悠一)、AKASHI Nobuhiro (明石信廣・道総研林業試験場)、UNNO Akira (雲野明・道総研林業試験場)、TSUSHIMA Toshiyuki (対馬俊之・道総研林業試験場)、NAGASAKA Yuu (長坂有・道総研林業試験場)、NAGASAKA Akiko (長坂晶子・道総研林業試験場)、 INARI Naoki (稲荷尚記・森林総研PD) 、 SAYAMA Katsuhiko (佐山勝彦) 、SATO Shigeho (佐藤重徳)	2016.10	Evaluating the effect of retention forestry in planted forests(保残伐の効果を実験林で実証する)	IUFRO regional congress for Asia and Oceania 2016, Abstracts、234-235
明石信廣(道立林業試験場)、対馬俊之(道立林業試験場)、雲野明(道立林業試験場)、長坂晶子(道立林業試験場)、長坂有(道立林業試験場)、大野泰之(道立林業試験場)、新田紀敏(道立林業試験場)、渡辺一郎(道立林業試験場)、南野一博(道立林業試験場)、山田健四(道立林業試験場)、石濱宣夫(道立林業試験場)、滝谷美香(道立林業試験場)、津田高明(道立林業試験場)、竹内史郎(道立林業試験場)、石塚航(道立林業試験場)、福地稔(道立林業試験場)、山浦悠一、尾崎研一、弘中豊(北海道大学)、 稲荷尚記(森林総研PD)	2017.03	トマツ人工林における保残伐施業の実証実験(REFRESH)における実験区の伐採前の林分組成	北海道林業試験場研究報告、54:31-45
八巻一成	2016.04	北海道における林業遺産と森林鉄道関連遺構	北方林業、67(1):24-28
YAMAKI Kazushige (八巻一成)	2016.06	Role of social networks in urban forest management collaboration: A case study in northern Japan(協働型都市林管理における社会ネットワークの役割:北日本の事例)	Urban Forestry & Urban Greening、18:212-220
八巻一成	2016.07	平取町におけるアイヌ文化伝承へ向けた森林再生の取り組み: 北方森林学会春季行事に参加して	北方林業、67(2):68-69
Thomas Jones (明治大学)、 YAMAKI Kazushige (八巻一成)	2016.11	Investigating National Parks and Place Branding: A Case Study of the Peak District Environmental Quality Mark(国立公園と地域ブランドに関する考察: ピークディストリクト:環境認証マークの事例)	2016年林業経済学会秋季大会発表要旨、C6
八巻一成 、武田泉(北海道教育大学札幌校)、奥山洋一郎(鹿児島大学)、柴崎茂光(国立歴史民族博物館)	2016.11	北海道における林業遺産保存の現状と課題	2016年林業経済学会秋季大会発表要旨、C5
八巻一成	2017.01	北の林業遺産(1)北海道開拓初期の植林試験地—円山養樹園	北方林業、68(1):30-31
八巻一成	2017.01	30年後の知床伐採問題—その意味を今あらためて考える	北方林業、68(1):1

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
八巻一成、若菜千穂(いわて地域づくり支援センター)	2017.03	地域おこし協力隊制度の効果と限界:岩手県西和賀町・花巻市	若年層の田園回帰事例に学ぶ農山村再興方策報告書、115-
八巻一成	2017.03	東北における若者の田園回帰の実態:岩手県遠野市	若年層の田園回帰事例に学ぶ農山村再興方策報告書、28-39
八巻一成	2017.03	林業遺産と地域づくり	北の森だより、17:6-7
八巻一成	2017.03	地域の文化を守るヨーロッパの自然公園	季刊森林総研、36:8-9
深町加津枝(京都大学)、柴崎茂光(国立歴史民族博物館)、奥山洋一郎(鹿児島大学)、八巻一成、奥敬一(富山大学)	2017.03	全国の林業遺産の分布状況と今後の展望	第128回日本森林学会大会学術講演集、98
井上真理子、大石康彦、八巻一成	2017.03	多摩森林科学園主催の「森林教育交流会」の成果と課題	第2回森林教育交流会発表要旨集、p.31
井上真理子、大石康彦、八巻一成	2017.03	「木」に関する教育の実践者・研究者の交流を通じた森林教育のニーズ把握	第128回日本森林学会大会学術講演集、190
小谷英司、鷹尾元(JIRCAS)、田中真哉、細田和男、西園朋広、古家直行、北原文章、家原敏郎、山田祐亮、金森匡彦(日林協)	2016.05	高・低密度航空レーザデータによるスギ林本数密度推定	写真測量学会H28年次学術講演会発表論文集、pp.73-74
木村健一郎(JIRCAS)、Singkone Xayalath(シンコンザヤラス・ラオス森林科学研究センター)、米田令仁、古家直行	2016.06	ラオス中部の森林から採集されるきのこ	第26回日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集、95
KODANI Eiji(小谷英司)、TAKAO Gen(鷹尾元・JIRCAS)、TANAKA Shinya(田中真哉)、HOSODA Kazuo(細田和男)、NISHIZONO Tomohiro(西園朋広)、FURUYA Naoyuki(古家直行)、KITAHAARA Fumiaki(北原文章)、IEHARA Toshiro(家原敏郎)、YAMADA Yusuke(山田祐亮)、KANAMORI Masahiko(金森匡彦・日林協)	2016.09	Comparative analyses of high and low density LiDAR data for forest stand volume and mean height in man-made Sugi coniferous forest area(スギ人工林での高・低密度航空LiDARデータを用いた林分材積と平均樹高推定式の比較分析)	IUFRO International Symposium FORCOM/SFEM/2016 Abstract、pp.15
古家直行	2016.11	機動性を活かしたドローンの森林・林業現場への活用	季刊森林総研、35:4-5
古家直行、倉本恵生	2016.11	カンバ着花調査におけるUAV空撮技術活用の可能性	日本写真測量学会平成28年度秋季学術講演会発表論文集、:5-6
倉本恵生、古家直行	2017.02	UAV空撮画像によるカバノキ科樹木の着花判読ー撮影時期と判読性ー	北方森林研究、65:35-38
倉本恵生、古家直行	2017.03	カバノキ科樹木の雄花生産の種間・個体間変異とUAVによるその評価	第128回日本森林学会大会学術講演集、P255

V. 資料

1. 会議

会 議 名	開 催 日	主 催	開 催 場 所
研究所会議	年3回 (5・11・3月)	森林総合研究所 総合調整室	森林総合研究所
北海道支所運営連絡会	週1回	北海道支所	北海道支所
北海道支所運営会議	月2回	北海道支所	北海道支所
庶務課長等会議	28.11.24～11.25	森林総合研究所 庶務部	森林総合研究所
企画連絡会議	28.12.8～12.9	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所
北海道支所業務報告会	28.12.5	北海道支所	北海道支所
北海道支所研究評議会	29.2.21	北海道支所	札幌市男女共同参画センター
研究評議会	28.11.8	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所
研究推進評価会議	29.3.2	本所企画部	森林総合研究所

(林業研究開発推進ブロック会議)

林業研究・技術開発推進ブロック会議(北海道ブロック)	28.9.27	林野庁 北海道支所	かでる2・7(札幌市)
----------------------------	---------	--------------	-------------

(林業試験研究機関連絡協議会)

北海道林業林産試験研究機関連絡協議会情報連絡部会	28.6.23	北海道支所	北海道支所
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会研究専門部会	28.7.27	北海道育種場	北海道育種場
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会総会	28.8.31	北海道支所	札幌市男女共同参画センター

(推進会議及びプロジェクト関連会議)

交付金プロジェクト「トドマツ更新」推進評価会議	29.1.27	北海道支所	北海道支所
-------------------------	---------	-------	-------

(林業試験研究機関連絡協議会)

北海道国有林森林・林業技術協議会	28.11.30	北海道森林管理局 北海道支所 北海道育種場 札幌水源林整備事務所	南富良野町
------------------	----------	---	-------

2. 諸行事

年 月 日	行 事
28.5.10	下川町との研究協力協定締結(延長)
28.5.14	一般公開 開催(北海道支所・北海道育種場・札幌水源林整備事務所)
28.5.23	韓国中部森林庁視察団施設見学
28.8.29	北海道指導林家連絡会施設等見学
28.8.30	在札国立研究開発法人意見交換会
28.9.23	北海道大学生物資源科学科施設見学
28.9.30	広島県立西条農業高等学校施設見学
28.10.25～10.26	交プロ「トドマツ更新」現地検討会
28.11.16	技術開発成果発表会
28.12.13	札幌大学との合同公開講座
29.2.8	北海道地域研究成果発表会
29.3.2	森づくりセミナー「天然林施業をとりまく現状と課題」

3. その他の諸会議

会 議 名	開催日	主 催	出 席 者
なし			

4. 職員の研修・講習

研 修 ・ 講 習 名	期 間	主 催	受 講 者
平成28年度農林水産関係研究リーダー研修	28. 8. 24～25	農林水産技術会議事務局	矢部 恒晶
平成28年度情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会	28. 6. 24	北海道管区行政評価局	佐藤 正人
平成28年度勤務時間・休暇制度等説明会及び両立支援制度等説明会	28. 7. 14	人事院北海道事務局	横濱 大輔
平成28年度勤務時間・休暇制度等説明会及び両立支援制度等説明会	28. 7. 14	人事院北海道事務局	佐藤 正人
平成28年度英語研修	28. 8. 10～11. 15	WORDWISE外国語教室	北村 系子
平成28年度「服務・懲戒制度説明会」及び「倫理制度説明会」	28. 9. 9	人事院北海道事務局	神田 光紀
平成28年度給与実務初任者等研修会	28. 9. 15～16	人事院北海道事務局	佐藤 正人
所内短期技術研修	28. 9. 26～30	森林総合研究所	北村 系子
平成28年度英語研修	28. 10. 5～12. 2	WORDWISE外国語教室	溝口 康子
労働安全衛生法に基づく特別教育（伐木（チェーンソー）取扱）	28. 10. 13～14	キャタピラー教習所（株）北海道教習センター	中西 敦史
平成28年度行政管理、評価・監査北海道セミナー	28. 10. 14	北海道管区行政評価局	坂上 勉
平成28年度行政管理、評価・監査北海道セミナー	28. 10. 14	北海道管区行政評価局	横濱 大輔
平成28年度政策評価に関する統一研修	28. 12. 2	北海道管区行政評価局	横濱 大輔

5. 受託出張（78件）

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
違法伐採現地情報収集等事業第1回 リスク評価取組動向調査事業委員会 出席	H28.4.25～4.26	一般社団法人全国 木材検査・研究協 会 理事長 後藤 隆一	永田町ビル(東京都 千代田区永田町2 -4-3)	嶋瀬 拓也
第63回東北海道木材協会定期総会 記念講演会講師	H28.6.3	東北海道木材協会 会長 大澤友厚	ホテル日航ノースラ ンド帯広(帯広市西 2条南13丁目1)	佐々木 尚三
①平成26年度洞爺湖中島エゾシカ影 響調査業務報告 ②平成26年度洞爺湖中島エゾシカ試 験捕獲業務報告 ③平成26年度洞爺湖中島エゾシカ捕 獲個体調査及び搬出業務報告	H28.4.26	洞爺湖町長 真屋 敏春	洞爺湖町役場2階 町長室(北海道虻田 郡洞爺湖町栄町58 番地)	松浦 友紀子
若年層の田園回帰事例に学ぶ農山村 再興方策の研究に関わる会議出席	H28.5.7～5.8	特定非営利活動法 人いわて地域づくり 支援センター 代表 理事 廣田純一	いわて県民情報セ ンター6階 団体活 動支援室A・B(岩手 県盛岡市盛岡駅西 通1丁目7番1号)	八巻 一成
平成28年度森林総合監理士育成対 策事業における実践研修(現地検討) の北海道ブロック講師	H28.10.25～10.27	林野庁森林整備部 研究指導課 課長 宮澤俊輔	遠軽町福祉センター 及び生田原国有林	佐々木 尚三
総合職試験(院卒・大卒)の専門(多岐 選択式)の解答分析会出席	H28.5.25	人事院	人事院(東京都千代 田区)	伊東 宏樹
北海道林業遺構調査	①H28.5.27～28 ②H28.5.29	大学共同利用機関 法人人間文化研究 機構 国立歴史民 俗博物館 館長 久留島浩	①丸瀬布森林公園 いこいの森(北海道 紋別郡遠軽町丸瀬 布上武利80) ②士別市朝日町公 民館(北海道士別市 朝日町中央13区)	八巻 一成
平成28年度奥尻島線ブナ林検討会 出席	H28.6.15	北海道渡島総合振 興局長	北海道教育大学生 物実験室	北村 系子
北海道森林管理局保護林管理委員会 出席	H28.6.22	北海道森林管理局 長	北海道森林管理局 3階 大会議室(北 海道札幌市中央区 宮の森3条7丁目7 0番)	松本 光朗
北海道森林管理局保護林管理委員会 出席	H28.6.22	北海道森林管理局 長	北海道森林管理局 3階 大会議室(北 海道札幌市中央区 宮の森3条7丁目7 0番)	北村 系子
蜂等対策指導専門家養成研修のため の講演	H28.7.26	林業・木材製造業 労働災害防止協会 北海道支部長 松 原正和	北海道林業会館(北 海道札幌市中央区 北4条西5丁目)	佐山 勝彦
平成28年度造林・保護請負監督員研 修における講師	H28.6.29～6.30	東北森林管理局長	東北森林管理局2 階 大会議室(秋田 県秋田市中通5丁 目9-16)	松浦 友紀子

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
SATREPS「フィールドミュージアム構 想によるアマゾン生物多様性研究会 保全プロジェクト」研究会参加	H28.6.24～25	京都大学野生動物 研究センター セン ター長 幸島司郎	京都大学野生動物 研究センター セミ ナー室(京都府京都 市左京区田中関田 町2-24)	矢部 恒晶
平成28年度森林生態系多様性基礎 調査における精度検証調査事業(第4 期)及び森林資源調査データ解析事 業第1回合同委員会出席	H28.6.15～6.16	一般社団法人 日 本森林技術協会 理事長 福田隆政	日林協会館4階 中 会議室(東京都千代 田区六番町7番地)	松本 光朗
北海道産業(林業)遺構調査・打ち合 わせ	①H28.6.20 ②H28.6.21	大学共同利用機関 法人人間文化研究 機構 国立歴史民 俗博物館長 久留 島 浩	①三笠市内の林業 遺構跡(北海道三笠 市内) ②恵庭市内のインク ライン跡(北海道恵 庭市内)	八巻 一成
平成28年度知床世界自然遺産地域 科学委員会第1回エゾシカ・陸上生態 系ワーキンググループ出席	H28.6.28	知床世界自然遺産 地域科学委員会エ ゾシカ・陸上生態系 ワーキンググルー プ 座長 梶 光一	釧路地方合同庁舎 2階 第4会議室(北 海道釧路市幸町10 -3)	矢部 恒晶
北海道森林審議会出席	H28.7.12	北海道森林審議会 会長 小泉章夫	第2水産ビル8階 8 BC会議室(北海道 札幌市中央区北3 条西7丁目)	松本 光朗
平成28年度第1回国産材の安定供給 体制の構築に向けた北海道地区需給 情報連絡協議会出席	H28.7.13	北海道地区広域原 木流通協議会 会 長 高篠 和憲	ニューオータニイン 札幌(北海道札幌市 中央区北2条西1丁 目1)	嶋瀬 拓也
若年層の田園回帰事例に学ぶ農山村 再興方策の研究に関わる調査	H28.7.24～28	特定非営利活動法 人いわて地域づくり 支援センター 代表 理事 廣田純一	岩手県花巻市内(調 査対象者宅)	八巻 一成
平成28年度第1回北海道環境審議会 地球温暖化対策部会 出席	H28.7.29	北海道環境審議会 地球温暖化対策部 会長 山中康裕	北海道庁別館9階 第1研修室(北海道 札幌市中央区北3 条西7丁目)	松本 光朗
北海道森林審議会委員現地視察 参 加	H28.8.30	北海道森林審議会 会長 小泉章夫	美瑛町、東川町、当 麻町	松本 光朗
平成28年度第2回北海道森林審議会 林地保全部会 出席	H28.9.1	北海道森林審議会 林地保全部会長 阿部徹	北海道庁別館地下1 階 水産林務部2号 会議室(北海道札幌 市中央区北3条西6 丁目)	松本 光朗
平成28年度第2回北海道環境審議会 地球温暖化対策部会 出席	H28.9.5	北海道環境審議会 地球温暖化対策部 会長 山中康裕	北海道庁別館9階 第1研修室(北海道 札幌市中央区北3 条西7丁目)	松本 光朗
平成28年度(課題別研修)「地域住民 の参加による持続的な森林管理」コー ス 講師	H28.10.13	一般社団法人海外 林業コンサルタンツ 協会 会長 小澤 普照	森林総合研究所北 海道支所	松本 光朗
平成28年度(課題別研修)「地域住民 の参加による持続的な森林管理」コー ス 講師	H28.10.13	一般社団法人海外 林業コンサルタンツ 協会 会長 小澤 普照	森林総合研究所北 海道支所	矢部 恒晶

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
平成28年度第3回北海道環境審議会地球温暖化対策部会 出席	H28.10.17	北海道環境審議会地球温暖化対策部会長 山中康裕	かでの2. 7 10階1070会議室	松本 光朗
平成28年度「持続可能な森林経営のための政策立案能力の強化研修」講師	H28.9.25～9.26	林野庁森林技術総合研修所	JICA東京(東京都渋谷区西原2-49-5)	古家 直行
平成28年度国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構短期集合研修「数理統計(基礎編・応用編)」実施にかかる講師派遣依頼について	H28.11.17～18	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事長 井邊時雄	農林水産省農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター情報通信共同利用館(電農館)(茨城県つくば市観音台2-1-9)	伊東 宏樹
「北海道の将来をささえる森づくりを考える」講演会講師	H28.10.29	釧路管内指導林家連絡協議会 会長 中江徹	釧路市立博物館講堂(北海道釧路市春湖台1-7)	嶋瀬 拓也
洞爺湖中島エゾシカ対策協議会出席	H28.9.7	洞爺湖中島エゾシカ対策協議会 会長 洞爺湖町長 真屋 敏春	洞爺湖町役場3階防災研修ホール	松浦 友紀子
北海道台風被害による流木調査	H28.9.11～9.13	北海道森林管理局長	北海道北見市常呂川流域・北海道本別町本別公園周辺	延廣 竜彦
「浜頓別地区海岸防災林全体計画調査業務」に係る技術指導・助言	H28.10.12～10.13	株式会社北海道森林土木コンサルタント 代表取締役 東條将之	浜頓別町智福・猿払村エサヌカ・遠軽町浜啓明の海岸林	関 剛
エゾシカ関係者意見交換会出席	H28.9.29	北海道環境生活部長	北海道道民活動センター かでの2. 7会議室	松浦 友紀子
平成28年度知床世界自然遺産地域科学委員会第2回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ出席	H28.10.7	知床世界自然遺産地域科学委員会エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ 座長 梶 光一	釧路市生涯学習センター(北海道釧路市幣舞町4番28号)	矢部 恒晶
北海道森林審議会出席	H28.10.27	北海道森林審議会 会長 小泉章夫	第2水産ビル 4階4F会議室(北海道札幌市中央区北3条西7丁目)	松本 光朗
第73回札幌市緑の審議会 出席	H28.10.27	札幌市緑の審議会 会長 近藤哲也	ホテルモントレエーデルホフ札幌 12階ベルクホール(札幌市中央区北2条西1丁目)	関 剛
環境省「REDD+向けJCMガイドライン作業グループ 出席	H27.10.31～11.1	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 代表取締役 藤井秀延	TKP新橋カンファレンスセンター ミーティングルーム3E(東京都港区西新橋1丁目15-1)	松本 光朗
SATREPS「フィールドミュージアム構想によるアマゾン生物多様性研究会保全プロジェクト」研究会 出席	H28.10.21～10.22	京都大学野生動物研究センター センター長 幸島司郎	京都大学野生動物研究センター セミナー室(京都府京都市左京区田中関田町2-24)	矢部 恒晶

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
学生実習における銃器を使用した専門的な野生鳥獣捕獲実習、衛生管理手法に基づくエゾシカ解体実習、ビームライフル実習 講師	H28.11.11～11.13	学校法人酪農学園 酪農学園大学農食 環境学群環境共生 学類 学類長 吉 田剛司	北海道紋別郡西興 部村内	松浦 友紀子
功程調査指導	H28.10.31～11.2	くしろもうかる未利 用材搬出研究会	釧路市阿寒町東栄	佐々木 尚三
平成28年度森林資源調査データ解析 事業第2回委員会 出席	H28.11.20～11.21	一般社団法人日本 森林技術協会 理 事長 福田隆政	日林協会館3階大 会議室(東京都千代 田区六番町7番地)	松本 光朗
「フォーラム 野幌森林公園の今～10 年間の動植物調査でわかったこと～」 出席	H28.12.4	北海道森林管理局 長	北海道博物館(北海 道札幌市厚別区厚 別町小野幌53-2)	平川 浩文
SATREPS「フィールドミュージアム構想 によるアマゾン生物多様性保全プロ ジェクト」森林分野担当者打合せ会議 出席	H28.11.28～11.29	京都大学野生動物 研究センター セン ター長 幸島司郎	京都大学霊長類研 究所 所長・教授 湯本貴和研究室(愛 知県犬山市官林)	矢部 恒晶
平成28年度トドマツ人工林更新技術検 討会(現地検討会) 出席	H28.11.30～12.1	北海道森林管理局 計画課長	根釧西部森林管理 署290林班外	石橋 聡
平成28年度北の国・森林づくり技術 交流発表会 出席	H29.2.2～2.3	北海道森林管理局 長	国立大学法人北海 道大学学術交流会 館(札幌市北区北8 条西5丁目)	松本 光朗
平成28年度森林吸収源インベントリ 情報整備事業(衛星画像等による土 地利用変化の変化)検討検討会 出 席	H28.12.26～12.26	一般社団法人日本 森林技術協会 理 事長 福田隆政	日林協会館4階中 会議室(東京都千代 田区六番町7番地)	松本 光朗
平成28年度温室効果ガス排出量算 定方法検討会 第2回農業分科会 出 席	H28.12.27～12.27	三菱UFJリサーチ &コンサルティング 株式会社 代表取 締役 藤井秀延	三菱東京UFJリ サーチ&コンサル ティング株式会社2 412大会議室(東京 都港区虎ノ門5-1 1-2)	松本 光朗
「浜頓別地区海岸防災林全体計画調 査業務」に係る技術指導・助言	H28.11.29～11.29	株式会社北海道森 林土木コンサルタ ント 代表取締役 東條将之	宗谷森林管理署(北 海道稚内市中央1 丁目2番7号)	関 剛
功程調査の結果を取りまとめた成果 発表会における講評等	H28.11.21～11.21	くしろもうかる未利 用材搬出研究会	釧路市工業技術セ ンター	佐々木 尚三
違法伐採現地情報収集等事業第2回 リスク評価取組動向調査事業委員会 出席	H28.12.6	一般社団法人全国 木材検査・研究協 会 理事長 後藤 隆一	一般社団法人日本 治山治水協会(東京 都千代田区永田町 2丁目4番3号 永 田町ビル4階)	嶋瀬 拓也
北海道森林管理局保護林管理委員会 出席	H28.12.8	北海道森林管理局 長	北海道森林管理局 3階 大会議室(北 海道札幌市中央区 宮の森3条7丁目7 0番)	松本 光朗
第74回札幌市緑の審議会 出席	H28.12.14	札幌市緑の審議会 会長 近藤哲也	STV北2条ビル(札 幌市中央区北2条 西2丁目)	関 剛

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
UAVワークショップ講演	H28.12.6～12.7	国立研究開発法人 国際農林水産業研 究センター 理事長 岩永 勝	国立研究開発法人 国際農林水産業研 究センター本館1F 共用1会議室(茨城 県つくば市大わし1 -1)	古家 直行
新人ハンターセミナー(基礎編) 講師	H28.11.25～11.27	特定非営利活動法 人 西興部村猟区 管理協会 会長 中原 慎一	西興部村猟区	松浦 友紀子
平成28年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(陸生鳥類調査)モニタリング1000(陸生鳥類調査)検討会 出席	H28.12.6	環境省自然環境局 生物多様性セン ター長	五反田文化センター (東京都品川区西五 反田6-5-1)	佐藤 重穂
「女性ハンターはじめませんか？」講習会 講師	H29.1.20～1.21	湧別町鳥獣被害防 止対策協議会 会 長	上湧別コミュニ ティーセンター 1階 会議室(湧別町上湧 別屯田市街地318 番地 役場庁舎併 設)	松浦 友紀子
若年層の田園回帰事例に学ぶ農山村再興方策の研究に関わる調査	H28.12.17～12.21	特定非営利活動法 人いわて地域づくり 支援センター 代表 理事 廣田純一	岩手県遠野市・花巻 市内(調査対象者宅 等)	八巻 一成
北海道森林審議会出席	H28.12.19	北海道森林審議会 会長 小泉章夫	北海道庁旧本庁舎 (赤れんが庁舎) 2 階1号会議室(北海 道札幌市中央区北 3条西6丁目)	松本 光朗
若年層の田園回帰事例に学ぶ農山村再興方策の研究に関わる会議への出席	H28.12.26～12.28	特定非営利活動法 人いわて地域づくり 支援センター 代表 理事 廣田純一	東北活性化研究セ ンター(宮城県仙台 市)	八巻 一成
第75回札幌市緑の審議会 出席	H29.1.11	札幌市緑の審議会 会長 近藤哲也	STV北2条ビル(札 幌市中央区北2条 西2丁目)	関 剛
平成28年度知床世界自然遺産地域科学委員会第3回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ出席	H29.1.12	知床世界自然遺産 地域科学委員会エ ゾシカ・陸上生態系 ワーキンググルー プ 座長 梶 光一	釧路市生涯学習セ ンター(北海道釧路 市幣舞町4番28号)	矢部 恒晶
「広がれ！野鳥による生物多様性に富んだ森づくり検討会」出席	H29.2.9～2.10	公益財団法人 日 本野鳥の会 理事 長 佐藤仁志	公益財団法人日本 野鳥の会 会議室 (東京都品川区西五 反田3-9-23 丸 和ビル)	佐藤 重穂
北海道森林審議会出席	H29.2.9	北海道森林審議会 会長 小泉章夫	第2水産ビル8階 8 BC会議室(北海道 札幌市中央区北3 条西7丁目)	松本 光朗
第1回路網関係職員セミナー 講師	H29.3.10	北海道水産林務部 長	札幌市男女共同参 画センター 3階 ホール(札幌市北区 北8条西3丁目 札 幌エルプラザ内)	佐々木 尚三

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
「浜頓別地区海岸防災林全体計画調査業務」に係る技術指導・助言	H29.1.30～1.31	株式会社北海道森林土木コンサルタント 代表取締役 東條将之	宗谷森林管理署(稚内市中央1丁目2番7号)	関 剛
平成28年度奥尻島線ブナ林検討会出席	H29.1.31	北海道渡島総合振興局長	北海学園大学自然科学実験室	北村 系子
野幌自然環境モニタリング検討会(第24回) 出席	H29.2.10	北海道森林管理局長	野幌森林公園自然ふれあい交流館レクチャールーム	平川 浩文
平成28年度森林資源調査データ解析事業第3回委員会・平成28年度森林生態系多様性基礎調査における精度検証調査事業(第4期)第2回委員会合同委員会 出席	H29.2.12～2.13	一般社団法人日本森林技術協会 理事長 福田隆政	日林協会館3階 大会議室(東京都千代田区六番町7番地)	松本 光朗
平成28年度森林吸収源インベントリ情報整備事業「森林経営」対象森林率調査 調査委員会 出席	H29.2.16～2.17	一般社団法人日本森林技術協会 理事長 福田隆政	日林協会館3階 大会議室(東京都千代田区六番町7番地)	松本 光朗
「スズメバチの生態と刺傷被害・対策」講師	H29.2.15	国立大学法人北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター長 本村泰三	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター庁舎内講義室	佐山 勝彦
学生実習における銃器を使用した専門的な野生鳥獣捕獲実習、衛生管理手法に基づくエゾシカ解体実習、ビームライフル実習 講師	H29.2.17～2.19	学校法人酪農学園大学 酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類長 吉田剛司	北海道紋別郡西興部村内	松浦 友紀子
H28エゾシカエコツアー in Winter 講師	H29.2.10～2.12	特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会 会長 中原慎一	西興部村猟区	松浦 友紀子
北海道森林管理局保護林管理委員会出席	H29.2.27	北海道森林管理局長	北海道森林管理局3階 大会議室(北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番)	北村 系子
北海道森林管理局保護林管理委員会出席	H29.2.27	北海道森林管理局長	北海道森林管理局3階 大会議室(北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番)	松本 光朗
SATREPS「フィールドミュージアム構想によるアマゾン生物多様性保全プロジェクト」森林分野担当者打合せ会議出席	H29.2.22～2.23	京都大学野生動物研究センター長 幸島司郎	京都大学吉田泉殿(京都市左京区吉田泉殿町)	矢部 恒晶
平成28年度森林吸収源インベントリ情報整備事業有識者ヒアリング出席	H29.3.7	一般社団法人日本森林技術協会 理事長 福田隆政	農林水産省7階 林野庁 国家データベース室(東京都千代田区霞が関1-2-1)	松本 光朗
地域管理経営計画等に関する懇談会出席	H29.3.10	北海道森林管理局長	北海道森林管理局3階 大会議室(北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番)	松本 光朗

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
新人ハンターセミナー（応用編）講師	H29.3.24-3.26	特定非営利活動法人西興部村猟区管理協会 会長 中原 慎一	西興部村猟区	松浦 友紀子

6. 外国出張(10件)

用 務	日 程	経費負担先	行 先	氏 名
「道産カンバ類の高負荷価値用途への技術開発」に係る現地調査	28.4.16 ~ 28.4.24	寄付金事業	フィンランド	嶋瀬 拓也
「リモートセンシングによるチーク林分材積推定」に係る予備調査およびタイ側との計画検討会への参加	28.6.28 ~ 28.7.9	(研)国際農林水産業研究センター	タイ	古家 直行
「センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究」の研究成果をIUFRO2016年アジアオセアニア地域集会において研究発表	28.10.24 ~ 28.10.26	運営費交付金	中国	溝口 康子
リモートセンシングによるチーク林分材積推定に係る調査	28.12.15 ~ 28.12.26	(研)国際農林水産業研究センター	タイ	古家 直行
リモートセンシングによるチーク林分材積推定に係る調査	29.3.5 ~ 29.3.11	(研)国際農林水産業研究センター	タイ	古家 直行
「シカ捕獲者育成プログラム」の現地調査	28.8.3 ~ 28.8.9	酪農学園大学	アメリカ	松浦 友紀子
「フィールドミュージアム構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト推進」に係る推進会議出席	28.12.6 ~ 28.12.16	京都大学野生動物研究センター	ブラジル	矢部 恒晶
「東アジアにおける森林動態観測ネットワークを用いた森林炭素収支の長期変動観測」のカンボジア熱帯季節林の炭素動態に関する調査および研究打ち合せ	29.2.15 ~ 29.3.1	環境省受託事業費	カンボジア	伊藤 江利子
「林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可能性」における現地調査	29.2.15 ~ 29.2.21	科学研究費補助金	台湾	八巻 一成
「フィールドミュージアム構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト推進」に係る現地調査および中間評価準備	29.3.14 ~ 29.3.28	京都大学野生動物研究センター	ブラジル	矢部 恒晶

7. 研修生の受入

① 受託研修生(1名)

氏 名	所 属	研 修 期 間	研 修 内 容	受 入 担 当
菅井 徹人	北海道大学大学院農学研究院	28.6.1～10.31	クロロフィル蛍光反応測定を用いた環境応答評価技術	北海道支所 チーム長(北方林生態生理担当)

② 海外研修生(16名)

研修名: JICA集団研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」コース	
日 程: 28.10.13	
(国 名)	(人 数)
エチオピア	1
フィジー	2
インド	1
ケニア	2
マラウイ	2
ミャンマー	2
フィリピン	1
ソロモン諸島	1
スーダン	2
東ティモール	1
ベトナム	1

8. 来訪者

①支所視察・見学・利用

来訪日	来訪者	人数	目的	担当者
28. 5. 6～13	京都大学	1	昆虫類の調査及び試料採集	森林生物研究グループ
28. 5. 16～7. 29	北海道大学大学院農学研究 院	1	試料採取	森林育成研究グループ
28. 5. 12	南平岸ウォーキングの会	30	ウォーキング	地域連携推進室
28. 6. 2	札幌科学技術専門学校	13	環境調査実習	地域連携推進室
28. 6. 3	北海道大学	9	施設見学	チーム長（北方 林生態生理担 当）
28. 6. 7～7. 2	鳴門教育大学大学院学校 教育研究科	1	昆虫類の試料採集	森林生物研究グループ
28. 6. 23	手稲自然クラブ	20	観察会	地域連携推進室
〃	豊平区介護予防センター 西岡	20	標本館他見学	地域連携推進室
28. 7. 1	札幌科学技術専門学校	8	環境調査実習	地域連携推進室
28. 7. 3	西岡地区町内会連合会	30	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
28. 7. 21	豊平公園緑のセンター	9	標本館他見学	地域連携推進室
28. 8. 1	東京農工大学連合農学研究 科	2	試料採集	地域連携推進室
28. 8. 24	さわやかノルディック・ ウォーク倶楽部	25	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
28. 8. 24～28	京都大学	1	昆虫類の調査及び試料採集	森林生物研究グループ
28. 9. 5	札幌市豊平区保健福祉部	30	ノルディックウォーキング講習会	地域連携推進室
28. 9. 20	豊平公園みどりのセン ター	5	現地研修	地域連携推進室
〃	S S－燦	12	ウォーキング	地域連携推進室
28. 9. 22	西岡地区町内会連合会	75	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
28. 10. 26	自然ウォッチングセン ター	20	自然観察会	地域連携推進室

②実験林利用者

利用期間	利用者	人数	目 的
28. 4. 1～11. 18	川路則友他	2	森林性鳥類の生態調査および鳥類標識調査
28. 4. 1～ 29. 3. 31	(独)北海道農業研究セン ター	1	札幌の境界層の発達を画像（スモッグや雲の形成等） により捕捉
28. 5. 11～13	北海道大学低温科学研究 所	1	エゾヤマザクラ当年枝における成長及び繁殖調査
28. 5. 12～ 11. 15	北海道大学理学部	1	森林性鳥類の生態調査および鳥類標識調査補助
28. 8. 29～9. 2	北海道大学低温科学研究 所	3	トガリネズミ類の行動実験のための生体捕獲
28. 9. 7～10. 10	札幌キノコの会第六支部	15	きのこの採集
28. 9. 30	札幌科学技術専門学校	13	環境調査実習
29. 2. 7～4. 28	北海道大学低温科学研究 所	7	気象観測

③標本館来館者数

	一 般	学 生	国	都道府県	林業団体	外 国	計
4 月	193	0	4	0	0	0	197
5 月	331	8	3	0	0	21	363
6 月	184	0	0	0	0	0	184
7 月	117	0	0	4	2	12	135
8 月	111	2	0	0	51	1	165
9 月	153	49	2	2	1	4	211
10 月	162	0	0	0	0	16	178
11 月	52	0	4	0	0	0	56
12 月	15	0	4	0	0	0	19
1 月	45	0	0	0	0	0	45
2 月	45	0	0	0	0	0	45
3 月	31	0	2	0	12	0	45
合 計	1,439	59	19	6	66	54	1,643

9. 広報活動

①新聞等

内 容 等	掲載日	社名
森林総合研究所北海道支所一川町間の共同研究協定を5年間延長締結	28.4.11	名寄新聞 (デジタル版)
「SOS! 四国のツキノワグマ」シンポジウム開催	28.7.4	朝日新聞 (高知デジタル版)
木材需要の変遷解説	28.11.1	北海道新聞

②テレビ放送

内 容 等	放送日	局名
イチオシ! 「サクラ中継」	28.5.5	北海道テレビ
イチオシ! 「ハンノキの花粉について」	29.3.28	北海道テレビ

③定期刊行物

内 容 等	ISSN	発行日	発行部数
平成 2 9 年版北海道支所年報	2187-8730	30. 3	オンライン
北の森だよりVol. 1 6	1882-9627	29. 3. 24	900
シンポジウム報告			
・公開シンポジウム「前進する北の林業-先進機械を活用した伐採・造林一貫システムの開発」			
開催報告			
研究紹介			
・ハチが卵を温める話			
活動報告			
・平成 2 8 年度一般公開を開催			
・第 7 回北海道国有林森林・林業技術協議会現地検討会を開催			
北の森だよりVol. 1 7	1882-9627	29. 3. 31	900
平成 2 8 年度森林総合研究所北海道地域研究成果発表会 発表集			
1. 地域森林資源の有効利用に向けて			
2. 森林の間伐と水源涵養機能			
3. 林業遺産と地域づくり			
活動報告			
・平成 2 8 年度札幌大学・森林総合研究所合同公開講座を開催			
・平成 2 8 年度森林総合研究所北海道地域研究成果発表会を開催			
・森づくりセミナー「天然林をとりまく現状と課題-資源の育成と有効利用に向けて-」を開催			

1 0 . 図書刊行物の収数

区 分	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄 贈	計	購 入	寄 贈	計	
単行書	8冊	32冊	40冊	9冊	8冊	17冊	57冊
逐次刊行物	46誌	197誌	243誌	10誌	9誌	19誌	262誌

11.固定試験地・収穫試験地

①固定試験地

区分:A 森林総研主体、A' 森林総研・道局共同、B 道局からの依頼

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定 年度	終了予 定年度	調査 年度	距離 km	担当研究グループ	区 分
札幌 4	苫小牧植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	胆振東部	1301、いー 3 1463、い	トドマツ アカエゾマ ツ エゾマツ ダケカンバ	1.67 18.74	32	H30	不定期	97.6	森林育成研究グループ	A
札幌 7	札幌カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	石狩	41、な・ね	カラマツ	5.84	34	H31	不定期	28.9	森林育成研究グループ	A
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41、は	トドマツ	0.9	36	H33	10年毎	49.6	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18、ろ	カラマツ	1.1	41	H46	5年毎	75.1	北方林管理研究グループ	A
札幌32	ヤチダモ人工林の構造と生長試験地 (3)(4)	長伐期林分情報の整備方式の開発の予 測	石狩	41、ほ-20 33	ヤチダモ	1.14 1.13	30 25	H47	5年毎	29.9	北方林管理研究グループ	A
札幌51	札幌トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	石狩	58、ぬ 64、た	トドマツ	3.94	42	H29	不定期	39.4	森林育成研究グループ	A
札幌54	空沼天然林施設試験地(1)(2)	トドマツ・エゾマツ天然林の生長予測	石狩	1128、は い-1 と 1129、れ ほ へ	トドマツ エゾマツ 広葉樹	2.16 0.99	43 44	H30	5年毎	24.6	北方林管理研究グループ	A
札幌61	苫小牧広葉樹試験地	落葉広葉樹林の更新	胆振東部	1205、い	広葉樹類	43.37	50	H31	不定期	80	森林育成研究グループ	A'
旭川 1	枝幸カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	宗谷	6、い	カラマツ	5	34	H32	不定期	403.9	森林育成研究グループ	A
旭川 2	大雪植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	上川中部	260、ろ 276、い 290、い・ろ 320、い・ろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川 3	林冠破壊による土壌の変化試験地	森林伐採に伴う設置環境変動と堆積腐植 分解との関係	上川中部	260、ろ 276、い 290、い・ろ 320、い・ろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	植物土壌系研究グループ	B
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50、い	トドマツ	0.56	38	H47	10年毎	329.4	北方林管理研究グループ	A
旭川 8	上川トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	上川中部	141、い	トドマツ	4.47	42	H29	不定期	201.4	森林育成研究グループ	A
旭川 9	浜頓別トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	宗谷	1010、ろ・ は	トドマツ	9.02	42	H29	不定期	400.8	森林育成研究グループ	A
旭川11	大雪原生林植物群落保護林調査試験地	原生林の更新動態	上川中部	254 260	トドマツ アカエゾマ ツ エゾマツ	2	H11	定めず	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川12	士別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川北部	397、い	トドマツ エゾマツ	3.26	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
旭川13	幾寅天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川南部	141、ろ	トドマツ エゾマツ	4	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 4	エゾマツ・トドマツ天然生林固定標準地	林分成長量の推定及び予測手法に関す る研究	網走中部	1041、い	エゾマツ トドマツ 広葉樹	1.96	33	H30	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108、う	カラマツ	1.09	42	H46	5年毎	266.5	北方林管理研究グループ	A
北見 7	佐呂間トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	網走中部	90、む	トドマツ	4.53	42	H29	不定期	335.4	森林育成研究グループ	A
北見 8	津別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	網走南部	2205、ろ	トドマツ エゾマツ	2.08	H15	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
帯広 2	清水カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	十勝西部	15、い	カラマツ	4.67	35	H32	不定期	240.9	森林育成研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77、ろ	トドマツ	1	40	H38	10年毎	482.3	北方林管理研究グループ	A
帯広 9	根室トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	根釧東部	1024、い	トドマツ	4.32	44	H29	不定期	500	森林育成研究グループ	A
帯広10	弟子屈天然林成長試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	根釧西部	47、い	トドマツ エゾマツ	8	H15	H34	5年毎		北方林管理研究グループ	A
函館 8	函館トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	檜山	130、へ と ち	トドマツ	4.43	42	H29	不定期	319.3	森林育成研究グループ	A

②収穫試験地

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定 年度	終了予 定年度	調査 年度	担当研究グループ	区 分
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41、は	トドマツ	0.9	S36	H33	10年毎	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18、ろ	カラマツ	1.1	S41	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50、い	トドマツ	0.56	S38	H47	10年毎	北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108、う	カラマツ	1.09	S42	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77、ろ	トドマツ	1	S40	H38	10年毎	北方林管理研究グループ	A

12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧

No.	試験林名	試験項目	林班	樹種	年度	面積 ha	担当
1	針葉樹病害試験林	病害発生情報の収集・解析 と突発性病害発生生態の解 明	1-に	トドマツ他	48	0.55	森林生物研究 グループ
2	野鳥誘致林	キツツキ類の営巣穴の消失 過程の解析及び動態把握	1-へ	ナナカマ ド他	48	0.62	森林生物研究 グループ
3	特用樹試験林	成長調査	1-と	キササゲ 他	50	0.61	業務係
4	針・広葉樹造成試験林	成長調査	1-ち	イチイ他	H元	0.50	業務係
5	群落構成試験林	北方系天然林における成長 及び更新動態の長期モニタ リング	2-は～よ	ハイマツ 他	48	10.43	森林育成研究 グループ
6	針葉樹人工林試験林	成長調査	3-に、 5-へ～ち、 5-ぬ、 6-と	グイマツ 他	48	4.95	業務係
7	針葉樹腐朽病害試験 林	立木の腐朽・変色を起こす 菌類の生態および宿主との 相互作用の解明	3-ほ	カラマツ	H3	0.97	森林生物研究 グループ
8	広葉樹人工林試験林	成長調査	3-へ、 3-ち～る、 4-ろ、 5-り、 7-に	ミズナラ 他	48	6.31	業務係
9	広葉樹人工林試験林	北方林構成樹種の養分の 配分・利用特性	3-と	ウダイカンバ	49	0.94	植物土壌系研究 グループ
10	土壌環境長期モニタリ ング試験林	北方林の立地特性と物質循 環モデル	4-へ	トマツ他	48	1.62	植物土壌系研究 グループ
11	昆虫多様性試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-と	トマツ他	48	3.21	森林生物研究 グループ
12	虫害解析試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-ち	トマツ他	48	2.00	森林生物研究 グループ
13	生態遷移試験林	森林の更新を制御する因子 としてのササの動態及びそ の被覆の影響の評価	5-ろ、 6-ろ、 6-ほ	ヤマナラシ 他	53	21.19	森林育成研究 グループ
14	森林気象試験林	北方系落葉広葉樹林の二 酸化炭素動態のモニタリン グ	5-ろ、 6-い～ へ、 8-い ～ろ	ヤマナラシ 他	H6	57.13	寒地環境保全 研究グループ
15	植栽密度試験林	密度管理技術に基づく長伐 期林分の成長・収穫予測の 高度化	5-に	アカエゾマツ 他	48	5.77	北方林管理研究 グループ
16	鳥獣生態調査試験林	キツツキ類の営巣穴の消失 過程の解析及び動態把握	6-い、へ	シラカンバ 他	H5	14.96	森林生物研究 グループ
17	広葉樹用材林施業試 験林	天然林における択伐施業計 画法の改善	6-は～に	シラカンバ 他	53	6.31	北方林管理研究 グループ
18	針広混交林造成試験 林	樹種の環境適応性の生理 的・特性的の解明と評価	7-い～ろ	シラカンバ 他	50	14.95	植物土壌系研究 グループ
19	ウダイカンバ植栽試験 林	成長調査	8-は	ウダイカンバ	62	1.93	業務係

1 3. 羊ヶ丘の気象

○試験研究の資料として、昭和48年から北海道支所羊ヶ丘観測露場において、気象観測を実施している。

平成28年度の気象概要は以下のとおりである。

1. 今年度は、平均気温7.3℃で平年並みであった。最高気温は8月29日に記録した29.8℃であり、真夏日に相当する日が無かった。
2. 目視による初雪は10月20日で、29年3月までに積雪した雪は、4月15日に積雪ゼロとなった。

平成28年度の羊ヶ丘観測露場における観測値は、次表のとおりである。

平成28年度 気象年報

北緯 42度59分42秒
東経 141度23分26秒
標高 146.5m

1. 気温 (℃)

月	平均	最高平均	最低平均	極値最高	起日時	極値最低	起日時
H28. 4	5.9	12.6	0.5	20.5	21 13:50	-2.9	11 5:15
5	13.2	19.1	4.0	28.3	22 13:35	-1.4	2 0:11
6	15.1	19.7	9.6	27.1	29 13:50	5.3	6 4:20
7	18.9	23.6	14.5	28.7	31 12:40	9.9	5 4:10
8	21.8	24.5	17.1	29.8	29 14:22	10.5	28 5:06
9	17.2	23.6	12.3	29.3	2 12:49	7.3	30 5:05
10	8.5	16.9	0.5	23.8	2 12:43	-2.5	31 1:13
11	0.2	8.0	-6.8	13.0	19 12:51	-10.3	24 1:08
12	-3.2	5.7	-9.8	11.5	4 14:06	-13.3	28 20:42
H29. 1	-6.1	-0.5	-11.6	3.8	7 12:54	-17.6	24 6:57
2	-4.0	0.5	-9.5	5.9	17 14:18	-14.8	27 5:26
3	-0.4	2.8	-4.7	8.6	29 12:36	-9.2	8 6:35
年	7.3	13.0	1.3	29.8	8/29 14:22	-17.6	1/24 6:57
極値				35.7	1994/8/7 14:10	-22.8	1978/2/17 3:25

2. 降水量 (mm)

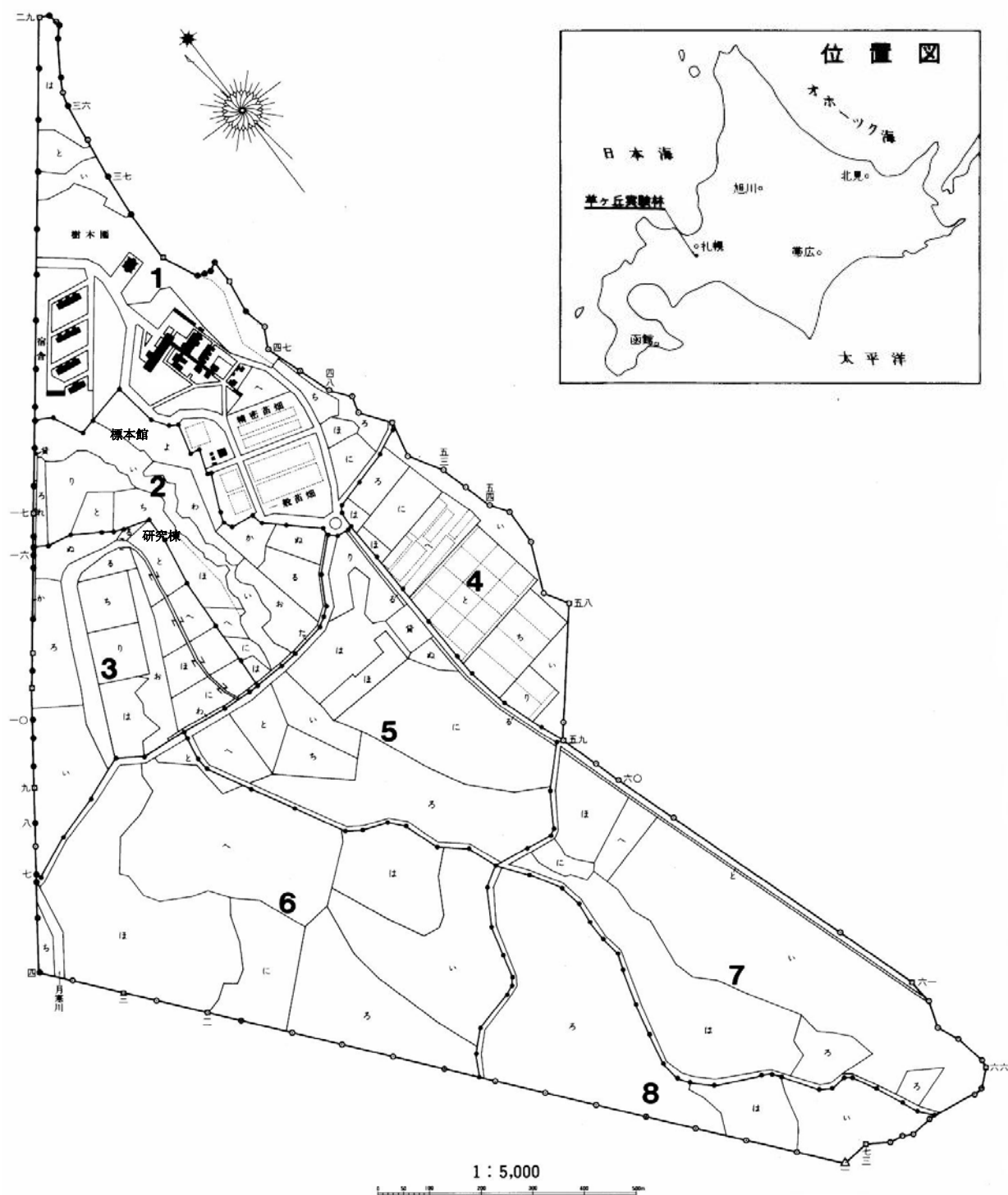
3. 積雪 (cm) (×: 欠測値)

月	総量	最大日量	起日	最大1時間量	起日	最大積雪深	起日
H28. 4	47.5	13.0	29	2.0	14	0.11	1
5	30.5	11.5	11	2.0	11	-	-
6	100.0	32.0	25	7.5	25	-	-
7	109.0	28.5	27	7.5	29	-	-
8	214.0	77.0	17	20.0	20	-	-
9	87.5	24.5	9	7.5	9	-	-
10	53.0	15.0	21	7.0	21	-	-
11	92.5	33.0	6	5.0	6	0.32	7
12	148.0	37.5	10	4.5	10	1.05	23
H29. 1	38.5	11.0	9	5.0	9	1.05	25
2	20.0	5.5	14	2.0	14	1.03	2
3	67.0	16.5	23	3.0	30	1.04	24
年	1,007.5	77.0	8/17	20.0	8/20	1.05	12/23
最大値の記録							
年降水量		最大日降水量		最大1時間降水量		最大積雪深	
最大	1,490.0 (1981)	220.5		51.0		150	
最小	572.0 (2008)	1981/8/23		1979/10/4 3:00		2013/3/11	

4. 風速 (m/sec)

月	平均	最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
H28. 4	2.1	6.6	SSW	20	21.5	N	15
5	1.9	8.2	S	16	19.7	S	16
6	1.8	7.3	S	12	16.7	SSW	12
7	1.6	5.1	SSE	27	15.1	SSE	27
8	1.3	7.2	SSE	30	19.9	SE	30
9	1.2	5.0	S	5	11.3	SSW	5
10	1.4	5.4	N	20	15.8	W	24
11	1.2	6.6	S	14	15.6	S	14
12	1.1	5.2	SSE	26	13.8	N	6
H29. 1	1.0	5.5	SSE	27	15.6	SSW	27
2	1.5	5.6	N	21	14.7	N	21
3	1.6	5.8	SSE	21	14.5	SW	21
年	1.5	8.2	S	5/16	19.9	SE	8/30

○羊ヶ丘実験林基本図



VI. 総務

1. 沿革

1908 年（明41）	6月	北海道庁告示第361号によって、江別村大字野幌志文別に内務省野幌林業試験場が設立された。
1927 年（昭 2）	9月	庁舎を江別町西野幌に新築し、移転した。
1933 年（昭 8）	1月	北海道林業試験場と改められた。試験部（育林、利用、科学、保護、気象）、庶務部（庶務、会計、売買）。
1936 年（昭11）	10月	木材利用部新設。森林標本館が設置される。 10月7日に昭和天皇陛下が行幸され、本場並びに付属試験林を見学された。
1937 年（昭12）	10月	上川森林治水保安試験所が開設された。
1939 年（昭14）	8月	釧路混牧林業試験所が開設された。
1940 年（昭15）	1月	帝室林野局北海道林業試験場が札幌市豊平に設立された。
1945 年（昭20）	8月	野幌試験林の管理経営を札幌営林署に移管。
1947 年（昭22）	5月	林政統一により帝室林野局北海道林業試験場と北海道庁所管の北海道林業試験場を合併、林業試験場札幌支場と改められた。
1950 年（昭25）	4月	上川、釧路両試験所が、それぞれ試験地と名称が変わる。
	7月	札幌営林局付属「森林有害動物調査所」が札幌支場の野鼠研究室になる。
	12月	木材利用部門は、本場に集中される。
1951 年（昭26）	7月	支場を札幌市におき、分室を西野幌におく（経営部、造林部、保護部、庶務課）
1953 年（昭28）	10月	野幌の試験設備をすべて札幌市豊平に統合し、北海道支場と改めた。 野幌試験地が開設された。
1954 年（昭29）		経営部に牧野研究室新設、調査室が庶務課から分離（昭22新設）、造林部種子研究室が育種研究室に名称変更。
1955 年（昭30）		保護部病理昆虫研究室が昆虫、樹病研究室に分離増。
1961 年（昭36）	5月	千歳国営林において植樹祭が行われる。昭和天皇・皇后陛下が支場に行幸された。
	11月	所期の目的が達せられたので、上川試験地は廃止された。
1965 年（昭40）	4月	経営部牧野研究室が営農林牧野研究室に名称変更。
	9月	所期の目的が達せられたので、釧路試験地は廃止された。
1967 年（昭42）	6月	会計課が新設された。
1968 年（昭43）	10月	創立 6 0 周年となり、祝典を行う。
1969 年（昭44）	4月	造林部造林研究室が造林第 1、造林第 2 研究室に分離増。
1970 年（昭45）	5月	経営部防災研究室が治山、防災研究室に分離増。
1972 年（昭47）	5月	羊ヶ丘への移転計画で実験林設置が決定したため、組織上の野幌試験地は廃止された。 調査室から実験林室が分離増。
1974 年（昭49）	10月	庁舎が札幌市豊平区豊平から同市豊平区羊ヶ丘へ移転し、施設の新築、整備が行われた。
1975 年（昭50）	4月	保護部野鼠研究室が鳥獣研究室に名称変更。
1976 年（昭51）	3月	羊ヶ丘における施設整備を完了した。
	5月	造林部の名称を育林部に変更。
1978 年（昭53）	10月	創立 7 0 周年となり、一般公開及び祝典を行う。
1981 年（昭56）	4月	育林部育種研究室、を遺伝育種研究室に名称変更。
1988 年（昭63）	10月	農林水産省組織規程の一部改正により森林総合研究所北海道支所に改組された。育林部造林第 1 研究室、造林第 2 研究室はそれぞれ樹木生理研究室、造林研究室となり、経営部経営研究室、営農林牧野研究室はそれぞれ天然林管理研究室、経営研究室となった。また経営部治山研究室と防災研究室は統合減となり、防災研究室となった。
	10月	創立 8 0 周年となり、記念植樹を行う。
1998 年（平10）	10月	創立 9 0 周年となり、一般公開及び祝典を行う。
2001 年（平13）	4月	独立行政法人森林総合研究所北海道支所となり、組織が変更となった。部制、会計課及び研究室が廃止され、研究調整官、地域研究官、庶務課長補佐、5 チーム長、5 研究グループ（森林育成・植物土壌系・寒地環境保全・森林生物・北方林管理）が新設された。
2006 年（平18）	4月	実験林室を連絡調整室へ統合し、業務係を新設した。
2007 年（平19）	4月	庶務課職員厚生係を庶務係へ統合した。
2008 年（平20）	10月	創立 1 0 0 周年となり、記念植樹及び式典を行った。
2010 年（平22）	10月	育種調整監を新設した。
2011 年（平23）	4月	研究調整監を産学官連携推進調整監に名称変更。
2011 年（平23）	9月	11日、札幌市内にて開催の「国際微生物学連合 2 0 1 1 会議」ご臨席のためご来道された天皇陛下が、当所標本館をご視察なさる。
2015 年（平27）	4月	独立行政法人の 3 分類により、国立研究開発法人となった。
2016 年（平28）	4月	産学官連携推進調整監を産学官民連携推進調整監に、連絡調整室を地域連携推進室に名称変更。
2017 年（平29）	4月	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所となった。

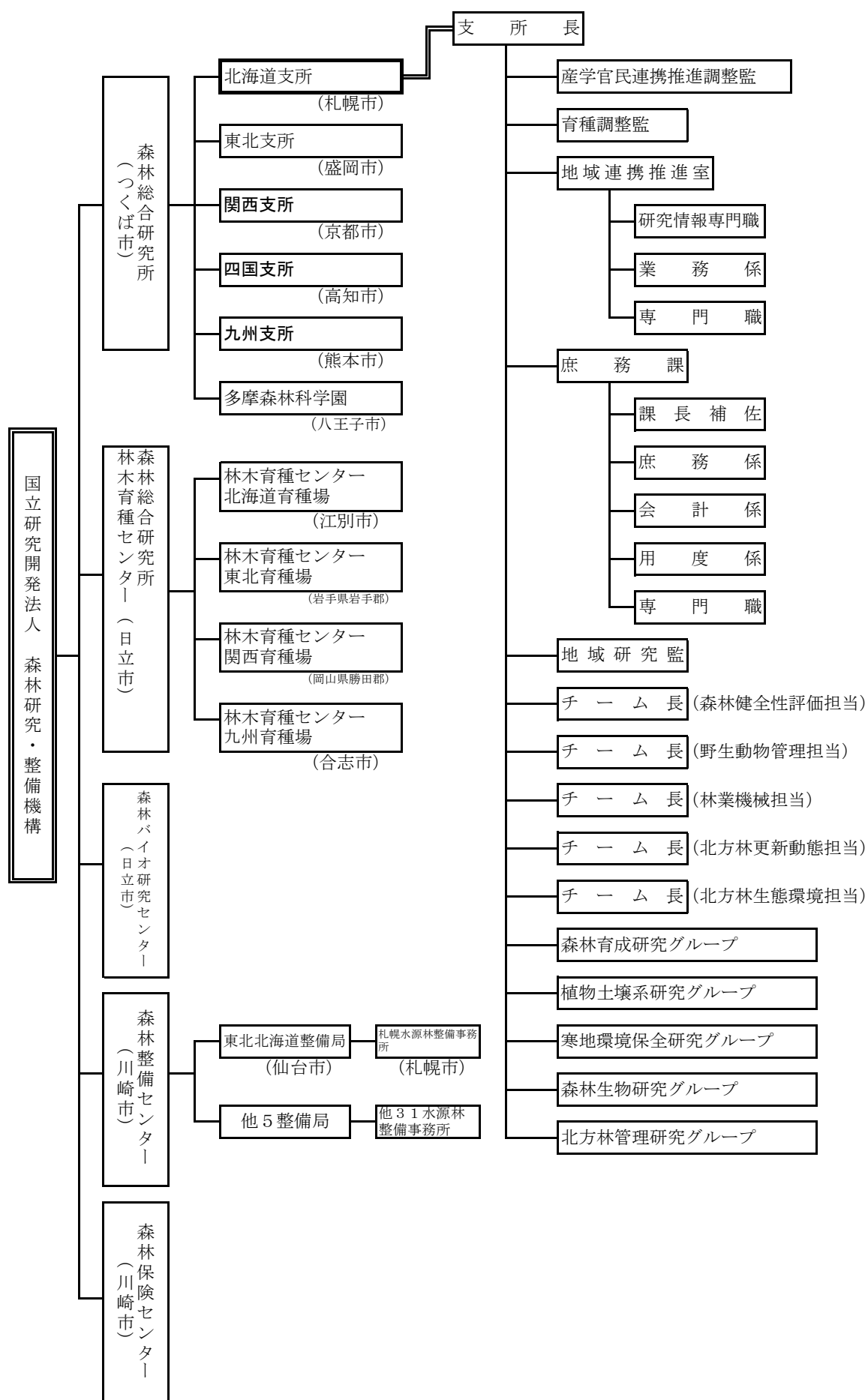
2. 土地・施設

○敷地・建物面積

(単位：㎡)

区 分	土 地 ・ 建 物		備 考
	構 造	面 積	
土 地		1,721,394	
建物敷地		55,668	
樹木園		62,900	
苗畑		38,590	
試験林ほか		1,564,236	
建 物 (延)		7,655	
研究本館	R C - 3	3,893	昭和49年8月10日 建築
特殊実験室	R C - 1	848	昭和48年4月1日 建築
生物環境調節実験施設	R C - 1	377	昭和49年10月12日 建築
野兎生態実験室	R C - 1	142	昭和48年4月1日 建築
鳥類屋外実験室	R C - 1	56	昭和49年10月12日 建築
温室	R - 1	300	昭和49年10月12日 建築
樹病隔離温室	R - 1	135	昭和49年10月12日 建築
日長処理施設	R - 1	129	昭和49年10月12日 建築
苗畑調査実験室	R C - 2	345	昭和48年4月1日 建築
鳥獣飼育場	R - 1	222	平成15年12月18日 建築
標本館	R C - 1	392	昭和49年10月12日 建築
その他		816	

3. 組織（平成29年4月1日現在）



4. 職員の異動（平成28年4月2日～平成29年4月1日）

○採用

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29. 4. 1	土谷 直輝	庶務課専門職	(研) 農業・食品産業技術総合研究機構 北海小津農業研究センター総務部会計課 会計チーム専門職
29. 4. 1	山中 聡	森林生物研究グループ	

○採用（再雇用）

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29. 4. 1	伊藤 賢介	森林生物研究グループ 地域連携推進室	

○所内異動

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29. 4. 1	石橋 聡	地域研究監	チーム長（北方林施業管理担当）
29. 4. 1	橋本 徹	チーム長（北方林生態環境担当）	植物土壌系研究グループ主任研究員
29. 4. 1	北尾 光俊	植物土壌系研究グループ長	チーム長（北方林生態生理担当）
29. 4. 1	嶋瀬 拓也	北方林管理研究グループ長	チーム長（林産物市場分析担当）

○転入

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29. 4. 1	河原 孝行	支所長	森林総合研究所 研究ディレクター

○転出

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29. 4. 1	松本 光朗	関西支所長	支所長
29. 4. 1	八巻 一成	森林総合研究所 森林管理研究領域環境計画研究室長	北方林管理研究グループ長
29. 4. 1	相澤 州平	森林総合研究所 立地環境研究領域チーム長（土壌調査担当）	北方林管理研究グループ長

○退職（定年）

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29. 3. 31	伊藤 賢介		地域研究監

5. 職員名簿（平成29年4月1日現在）

支所長	研究職	河原 孝行			
産学官民連携推進調整監	研究職	矢部 恒晶	森林育成研究グループ長	研究職	永光 輝義
育種調整監（併任）	一般職	宿利 一弥	主任研究員	〃	北村 系子
（林木育種センター北海道育種場長）			〃	〃	関 剛
			〃	〃	津山幾太郎
地域連携推進室長	一般職	室谷 邦彦	〃	〃	中西 敦史
研究情報専門職	〃	山本 健一			
専門職	〃	寺田 絵里	植物土壌系研究グループ長	研究職	北尾 光俊
業務係長	〃	佐々木卓磨	主任研究員	〃	上村 章
係 員	〃	長澤 俊光	〃	〃	伊藤江利子
再雇用	研究専門員	平川 浩文	〃	〃	原山 尚徳
再雇用（併任）	研究専門員	佐々木尚三			
再雇用（併任）	研究専門員	伊藤 賢介	寒地環境保全研究グループ長	研究職	山野井克己
			主任研究員	〃	溝口 康子
			〃	〃	延廣 竜彦
庶務課長	一般職	坂上 勉			
課長補佐	〃	渡邊 謙一			
庶務係長	〃	横濱 大輔	森林生物研究グループ長	研究職	佐藤 重穂
専門職	〃	佐藤 正人	主任研究員	〃	石原 誠
会計係長	〃	神田 光紀	〃	〃	佐山 勝彦
用度係長	〃	内山 拓	〃	〃	松浦友紀子
専門職	〃	吉田 厚	研究員	〃	山中 聡
専門職	〃	土谷 直輝	再雇用	研究専門員	伊藤 賢介
再雇用		近藤 洋美			
地域研究監	研究職	石橋 聡	北方林管理研究グループ長	研究職	嶋瀬 拓也
			主任研究員	〃	古家 直行
			再雇用	研究専門員	佐々木尚三
チーム長	研究職	山口 岳広			
（森林健全性評価担当）					
チーム長	〃	石橋 靖幸			
（野生動物管理担当）					
チーム長	〃	山田 健		研究職	27 名
（林業機械担当）				一般職	13 名
チーム長	〃	伊東 宏樹		技術専門職	0 名
（北方林更新動態担当）				再雇用職員	4 名
チーム長	〃	橋本 徹			（併任を除く）
（北方林生態環境担当）					

6. 事業予算額

(1) 事業予算額

(単位：千円)

事業科目名		予算額
事業費		22,632
一般研究費		10,486
	アア／北海道	144
	アイ／北海道	1,012
	アウ／北海道	2,305
	イア／北海道	4,810
	イイ／北海道	637
	エア／北海道	630
	連携推進費	948
特別研究費		11,358
	交プロ／北海道	11,358
基盤事業費		788
	基盤／北海道	788
政府等受託事業費		2,637
農林水産省受託事業費		1,132
	農林水産技術会議事務局受託事業	667
	林野庁受託事業	465
環境省受託事業費		1,505
	地球環境保全等試験研究費	1,505
政府外受託事業費		9,030
	特殊法人等受託事業費	6,452
	特殊法人等受託事業費（委託元政府外）	2,578
所内委託プロ		688
科学研究費補助金		20,769
寄付金事業		2,856
農林水産省補助事業		9,249
研究管理費		39,281
一般管理費		57,101
合	計	164,243

(2) 収入契約

(単位：千円)

事業科目名	予算額
事業収入	
調査等依頼収入	709
事業外収入	
資産貸付収入	58
合	計
	767

2018 年 3 月 発行

平成 29 年版 森林総合研究所北海道支所年報

編集・発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所
(担当：地域連携推進室)

〒062-8516 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘 7 番地

TEL(011)851-4131 FAX(011)851-4167

URL <http://www.ffpri.affrc.go.jp/hkd>

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所北海道支所の許可を得てください。

表紙写真：広葉樹の害虫 クワカミキリ（撮影：伊藤賢介）